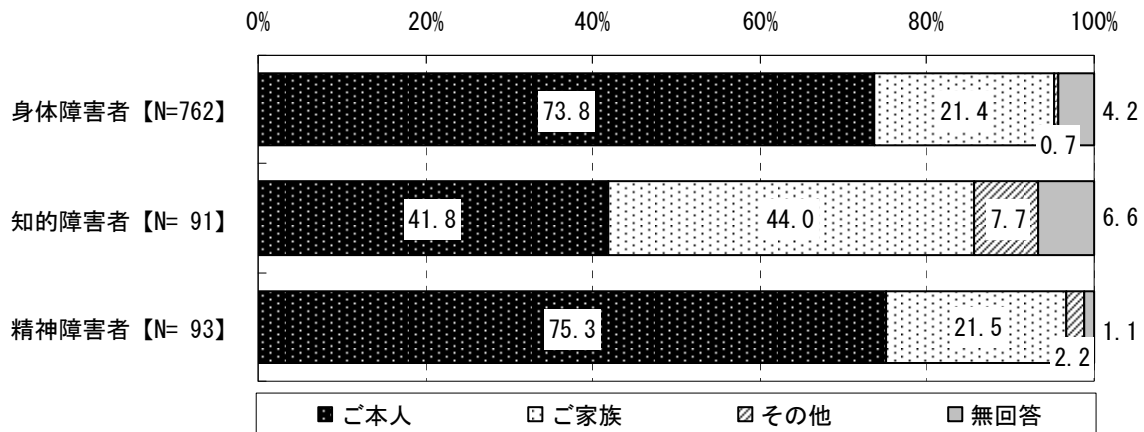


「南丹市障害者計画・第3期障害福祉計画」
策定のためのアンケート調査結果
中間報告

平成23年9月

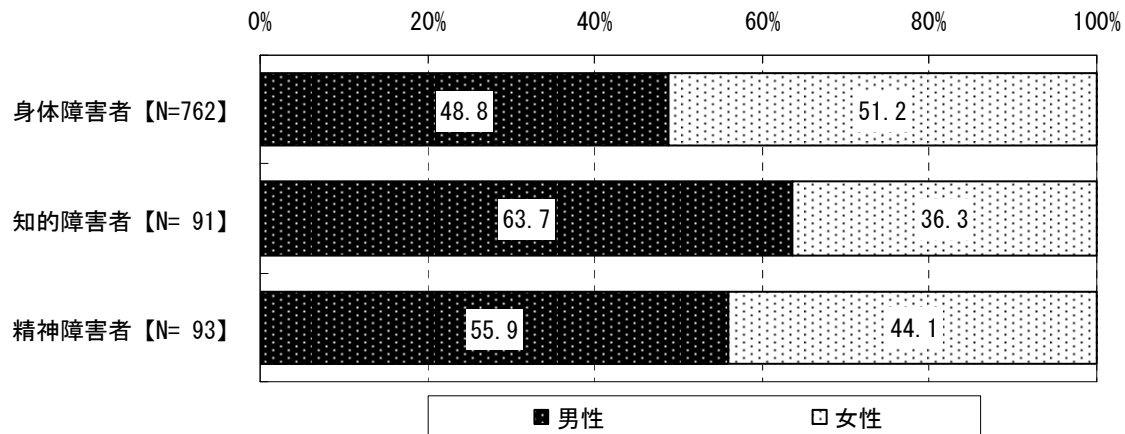
◎記入者

・本人の記入は、身体障害者で73.8%、知的障害者で41.8%、精神障害者で75.3%となっている。



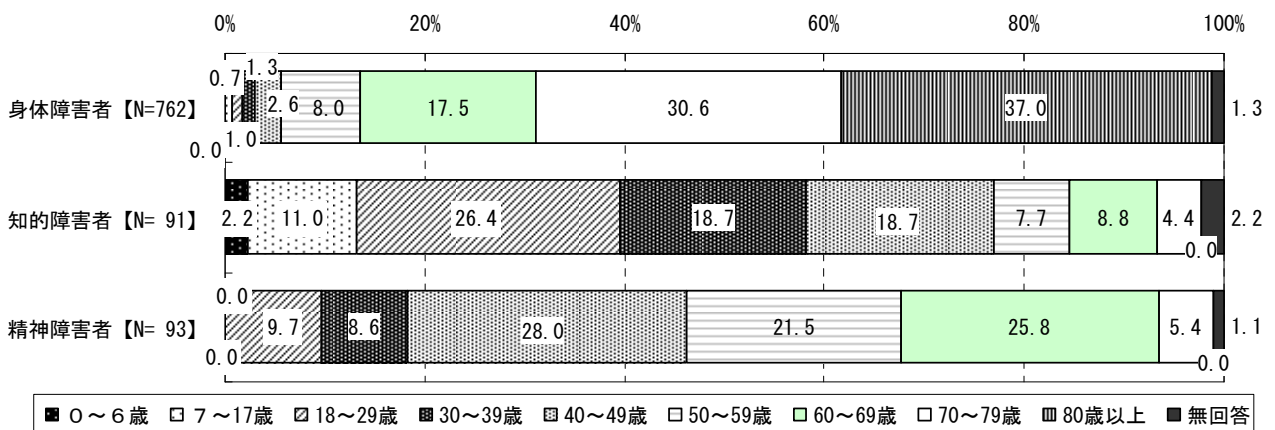
1 性別

・知的障害者と精神障害者では、男性の割合のほうが高くなっている。



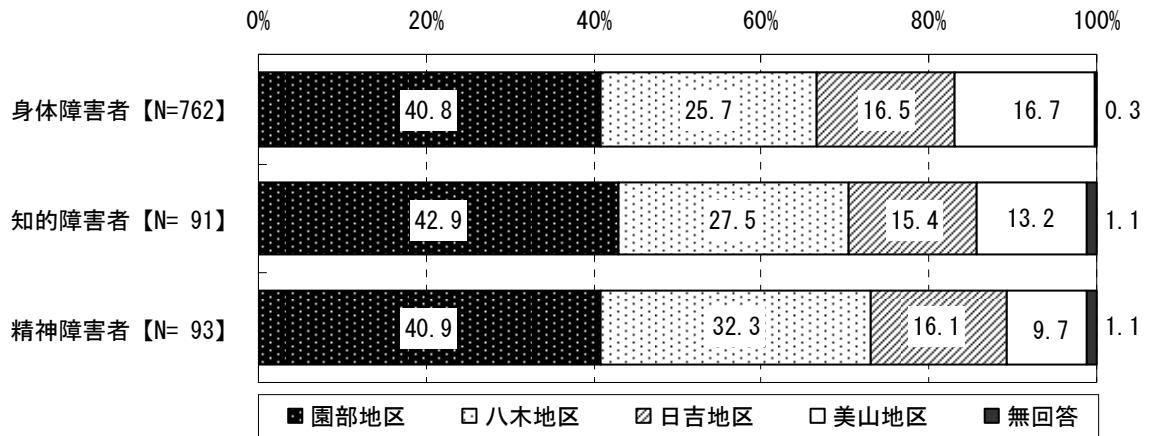
2 年齢

- ・身体障害者では80歳以上が37.0%、次いで70~79歳が30.6%となっている。
- ・知的障害者では18~29歳が26.4%、次いで30~39歳と40~49歳が同率18.7%となっている。
- ・精神障害者では40~49歳が28.0%、60~69歳が25.8%となっている。



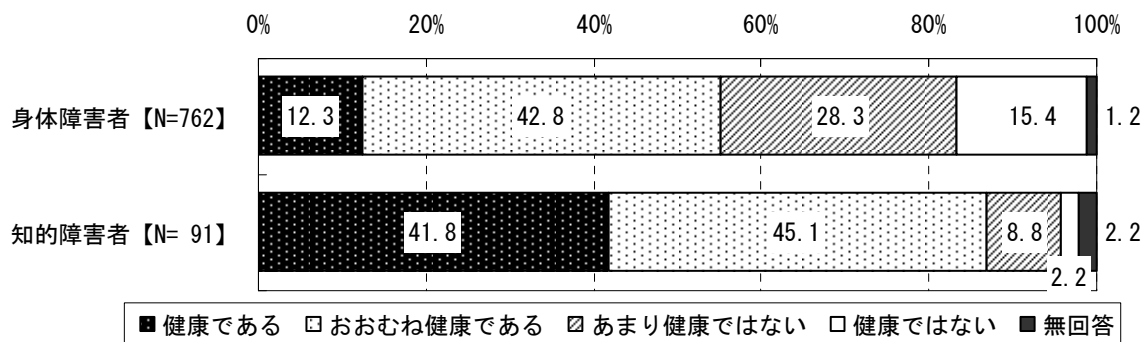
3 居住地区

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者すべてで、「園部地区」が最も高い比率であり、次いで「八木地区」が高くなっている。



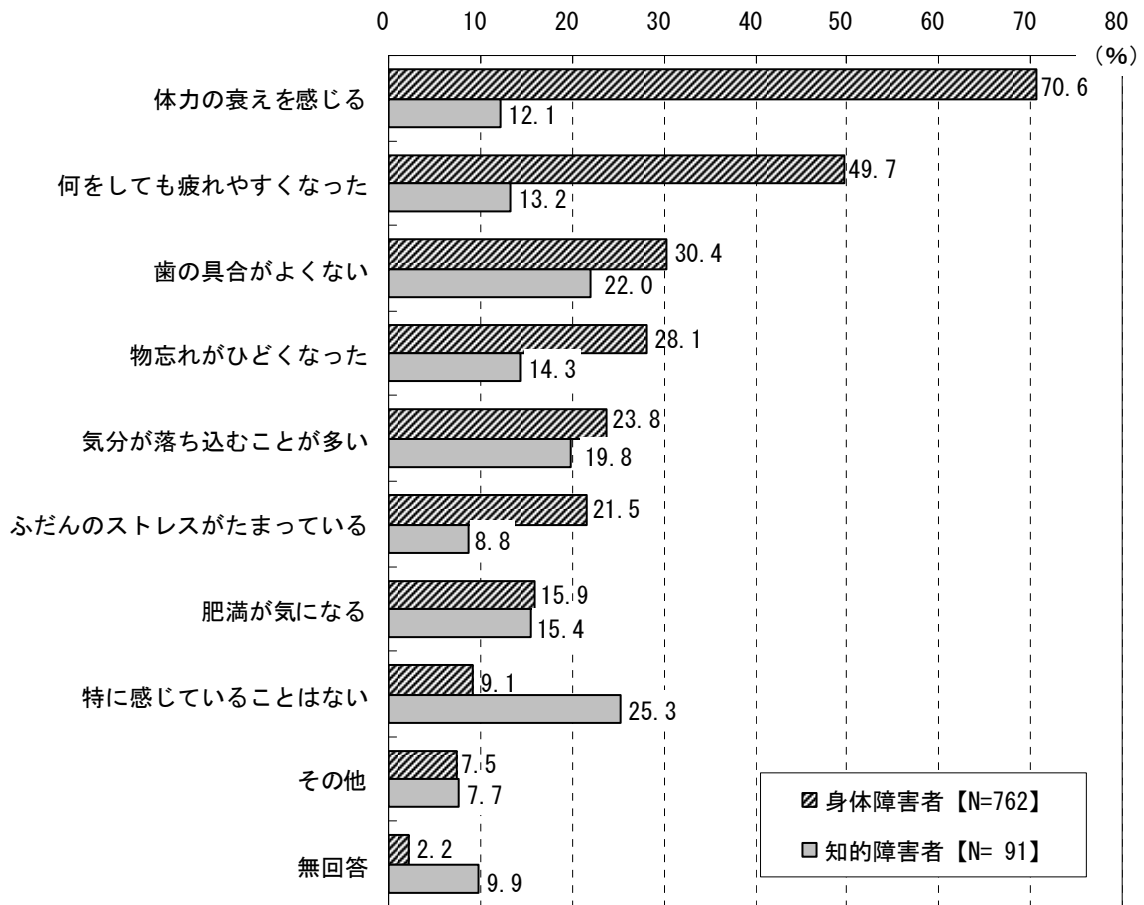
4 健康状態

- ・身体障害者では「健康である」と「おおむね健康である」を合わせると 55.1%となる。
- ・知的障害者では「健康である」と「おおむね健康である」を合わせると 86.9%となる。



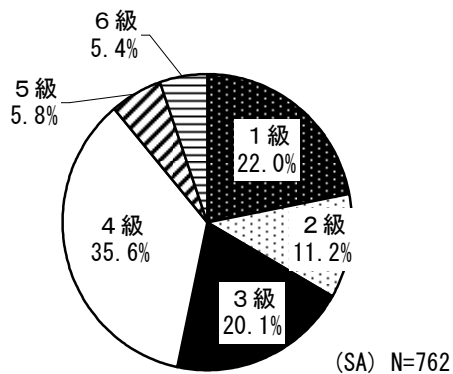
5 最近の健康状態を感じる事（MA）

- ・身体障害者では「体力の衰えを感じる」が70.6%と、最も高い比率となっている。
- ・知的障害者では「特に感じていることはない」が25.3%と最も高くなっている。



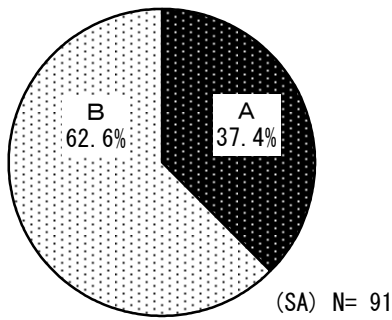
6 手帳の所持状況

(1) 身体障害者手帳の等級



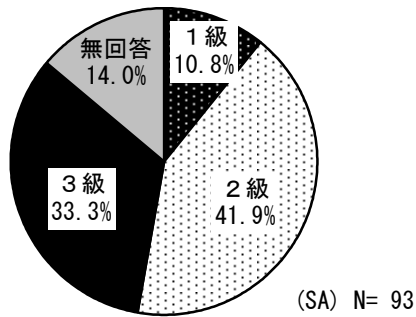
- ・今回の調査対象者のうち、身体障害者手帳保持者数は762人となっている。
- ・この762人を「身体障害者」の合計数として、各設問の分析に反映していく。
- ・等級は、左のグラフのような結果となっており、「4級」が最も高い比率で35.6%である。

(2) 療育手帳の判定



- ・今回の調査対象者のうち、療育手帳の保持者数は 91 人となっている。
- ・この 91 人を「知的障害者」の合計数として、各設問の分析に反映していく。
- ・判定については、「A」37.4%、「B」62.6%となっている。

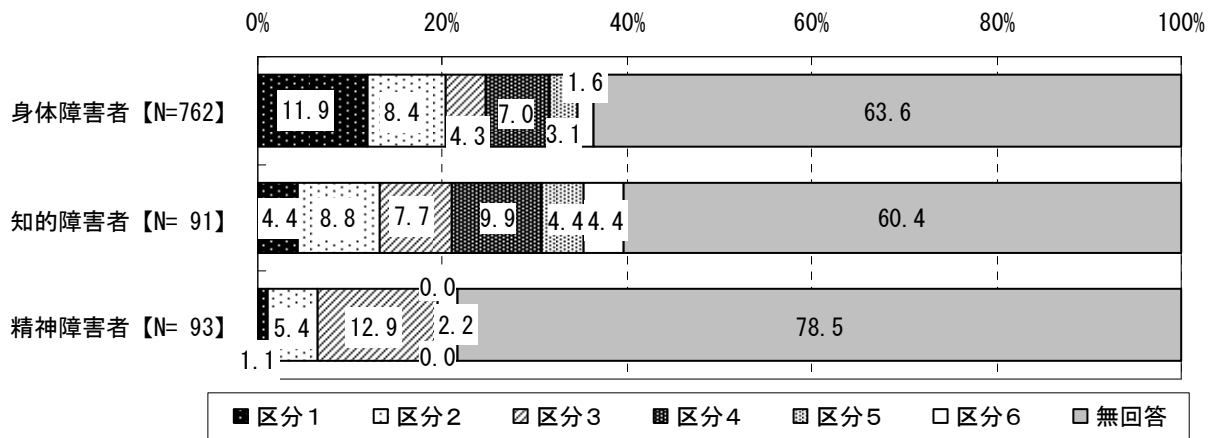
(3) 精神障害者保健福祉手帳の等級



- ・今回の調査対象者のうち、精神障害者保健福祉手帳の保持者数は 93 人となっている。
- ・この 93 人を「精神障害者」の合計数として、各設問の分析に反映していく。
- ・等級については、「2級」が 41.9%と最も高い比率となっている。

7 障害程度区分

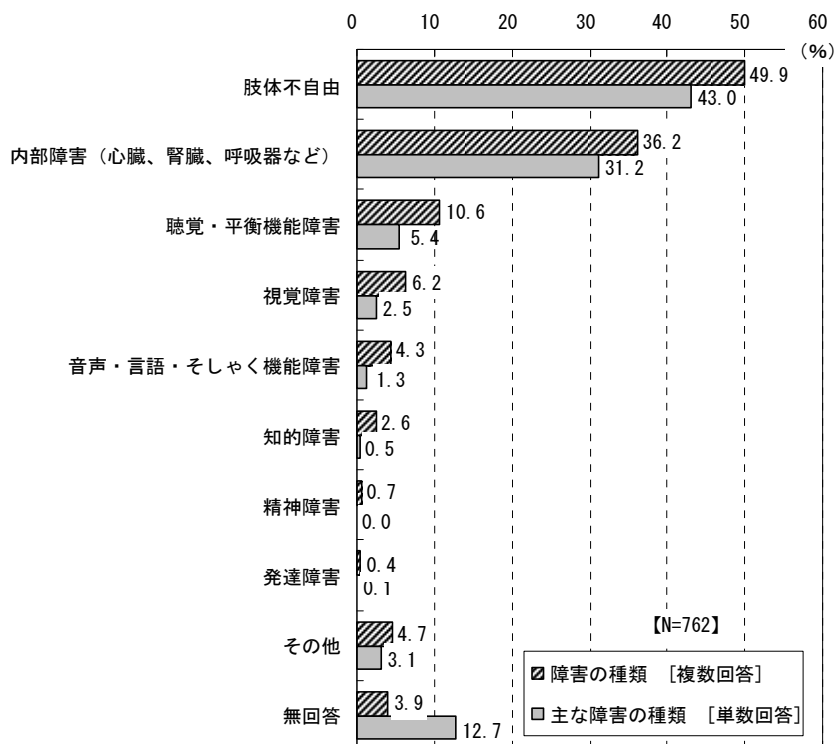
- ・身体障害者では「区分1」が最も高くなっている。
- ・知的障害者では「区分4」が最も高くなっている。
- ・精神障害者では「区分3」が最も高くなっている。



8 障害の種類

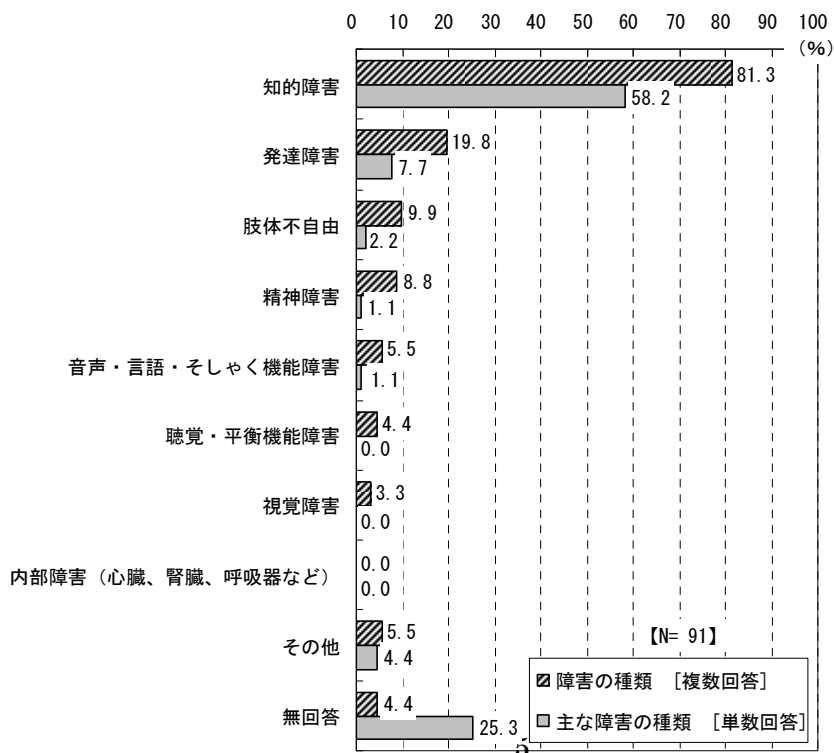
(1) 身体障害者の障害の種類と主な障害

- ・複数回答でみた障害の種類は、「肢体不自由」49.9%に次ぎ「内部障害」36.2%となっている。
- ・「主な障害の種類」（単数回答）では、「肢体不自由」43.0%、「内部障害」31.2%である。



(2) 知的障害者の障害の種類と主な障害

- ・複数回答でみた障害の種類は、「知的障害」81.3%に次ぎ、「発達障害」19.8%となっている。
- ・「主な障害の種類」（単数回答）では、「知的障害」58.2%、「発達障害」7.7%である。



(3) 発達障害の種類（「発達障害」のある人に）

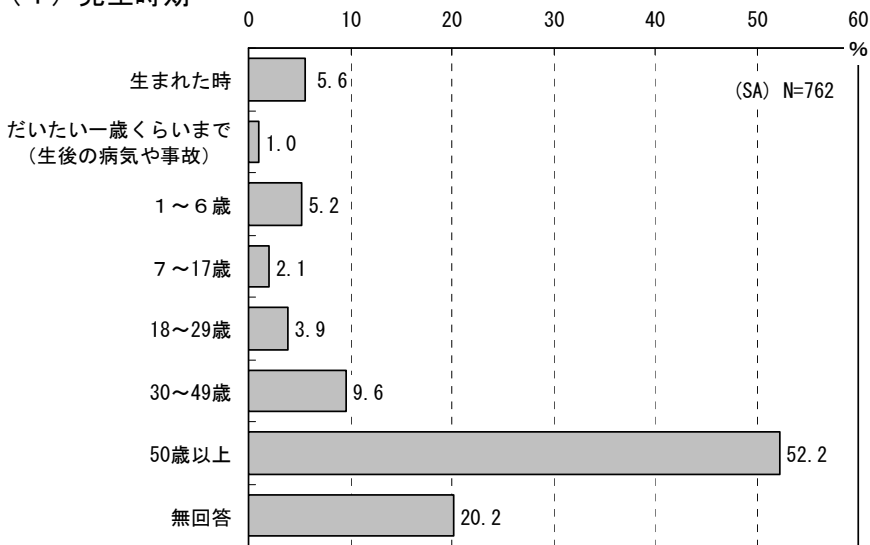
・「発達障害」のある人の種類については、下記のとおりとなっている。知的障害者のうち「自閉症」が10人となっている。

(複数回答)

区分	身体障害者【N= 3】		知的障害者【N=18】	
	人数	構成比 (%)	人数	構成比 (%)
自閉症	1	33.3	10	55.6
アスペルガー症候群	-	-	-	11.1
学習障害 (LD)	1	-	1	11.1
広汎性発達障害	-	33.3	2	5.6
高機能自閉症	-	-	1	5.6
自閉的傾向	-	-	-	-
高機能広汎性発達障害	-	-	2	-
注意欠陥多動性障害 (AD/HD)	-	-	-	-
高次脳機能障害	-	-	-	-
その他	-	-	1	5.6
診断を受けていない	-	-	1	5.6
無回答	2	66.7	3	16.7

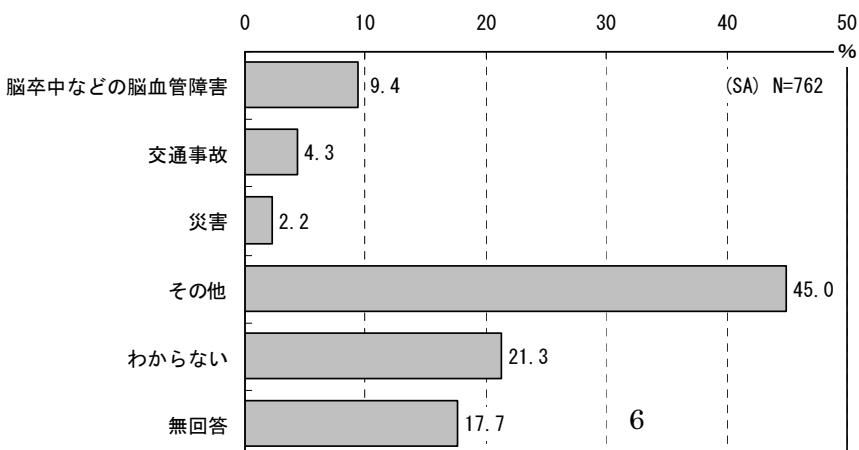
9 身体障害の発生（「身体障害者手帳保持者」に）

(1) 発生時期



・身体障害者手帳保持者の身体障害が生じた時期は、左のグラフのとおりとなっている。
 ・「50歳以上」が52.2%と最も高い比率となっている。

(2) 主な障害の原因



・身体障害が生じた主な原因については、「その他」が45.0%と最も高い割合である。
 ・「脳卒中などの脳血管障害」は9.4%となっている。

10 要介護認定状況

(1) 介護認定の有無

・「要介護認定を受けている」人については、身体障害者のうち 26.9%、知的障害者のうち 2.2%、精神障害者のうち 10.5%となっている。

単位：%

区分	全体	要介護認定を受けている	要介護認定を受けていない	無回答
身体障害者【N=762】	100.0	26.9	53.4	19.7
知的障害者【N= 91】	100.0	2.2	25.3	72.5
精神障害者【N= 93】	100.0	10.5	68.4	21.1

(2) 要介護度（認定者に）

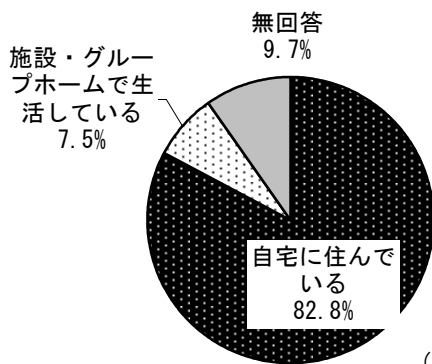
・身体障害者では「要介護 2」が最も高く 20.0%などとなっている。

単位：%

区分	全体	要支援 (1, 2)	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	無回答
身体障害者【N=205】	100.0	27.8	11.7	20.0	15.6	13.7	7.8	3.4
知的障害者【N= 2】	100.0	-	50.0	-	-	50.0	-	-
精神障害者【N= 8】	100.0	-	25.0	12.5	25.0	-	25.0	12.5

11 世帯と住まいの状況

(1) 生活場所（精神障害者に）



・精神障害者の生活場所については、「自宅に住んでいる」が 82.8%を占めている。「施設・グループホームで生活している」は 7.5%となっている。

(2) 住まいの状況

・それぞれ「持ち家（一戸建て、マンションなど）」が最も高い割合を占めており、身体障害者で 86.5%、知的障害者で 64.8%、精神障害者で 84.4%となっている。

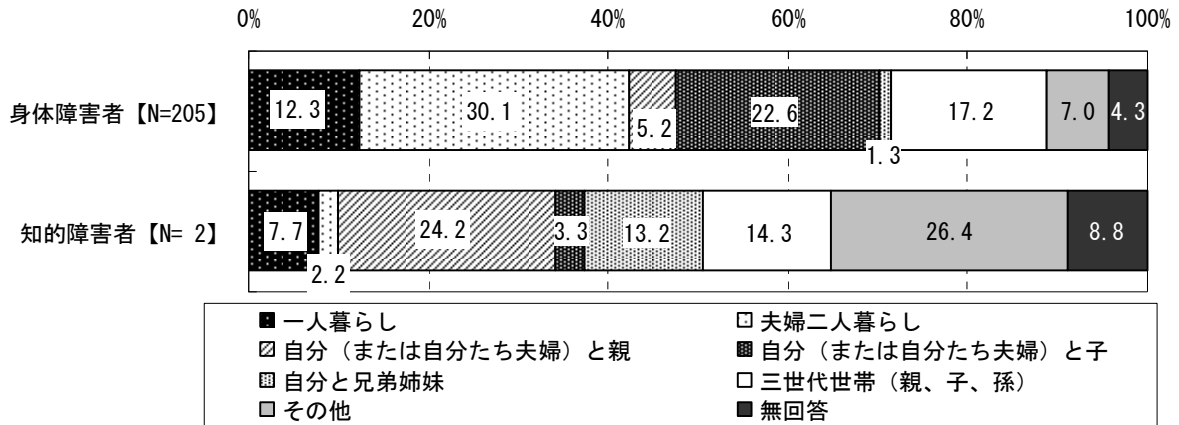
単位：%

区分	持ち家（一戸建て、マンションなど）	公営住宅（市営住宅、県営住宅など）	民間の借家（一戸建て、マンション、アパート、ハイツなど）	寮、社宅、官舎、公舎など	グループホーム（ケアホーム、福祉ホームなど）	その他	無回答
身体障害者【N=762】	86.5	2.4	3.5	0.1	2.1	2.8	2.6
知的障害者【N= 91】	64.8	5.5	6.6	-	8.8	8.8	5.5
精神障害者【N= 77】	84.4	3.9	11.7	-	-	-	-

(3) 世帯状況

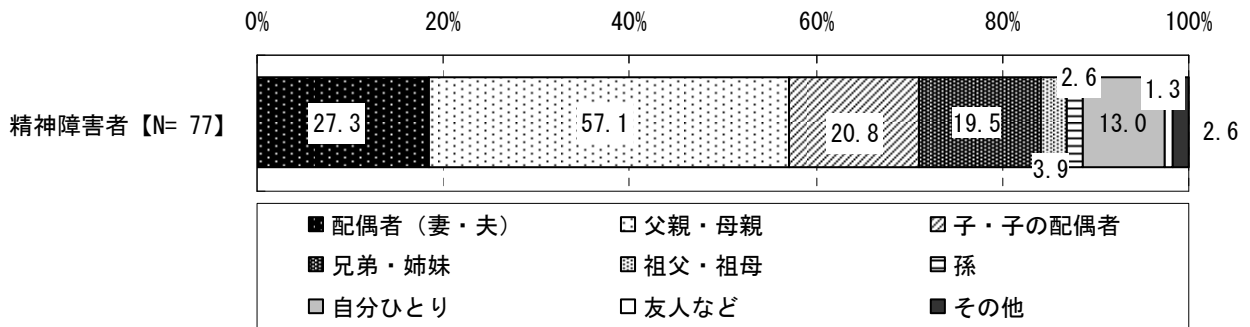
①世帯構成（身体障害者・知的障害者）

- ・身体障害者では、「夫婦二人暮らし」が 30.1%と最も高い割合で、次いで「自分（または自分たち夫婦と子）」が 22.6%となっている。
- ・知的障害者では、「その他」が 26.4%と最も高い割合で、次いで「自分（または自分たち夫婦）と親」が 24.2%となっている。



②同居者（精神障害者）

- ・現在、一緒に暮らしている人は、「父親・母親」が最も高く 57.1%、次いで「配偶者（妻・夫）」が 27.3%となっている。



12 介助の状況

(1) 主な介助者

①本人との関係

- ・身体障害者では「配偶者（妻・夫）」が37.1%と最も高い割合となっている。
- ・知的障害者では「父親・母親」が40.7%と最も高い割合となっている。

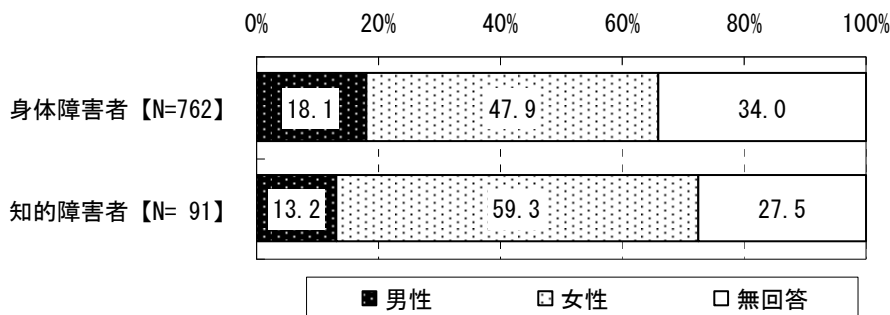
単位：%

区分	全体	配偶者 (妻・夫)	父親・母親	子・子の配 偶者	兄弟・姉妹	祖父・祖母	孫	親戚
身体障害者【N=762】	100.0	37.1	3.0	18.8	1.3	0.1	0.1	0.1
知的障害者【N= 91】	100.0	2.2	40.7	-	5.5	2.2	-	1.1

区分	隣人・知人	ホームヘル パー	グループ ホームの職 員	ボランティ ア	特にいない	必要としない	その他	無回答
身体障害者【N=762】	0.7	2.4	1.8	0.1	2.8	9.6	3.0	19.0
知的障害者【N= 91】	-	7.7	5.5	-	1.1	8.8	8.8	16.5

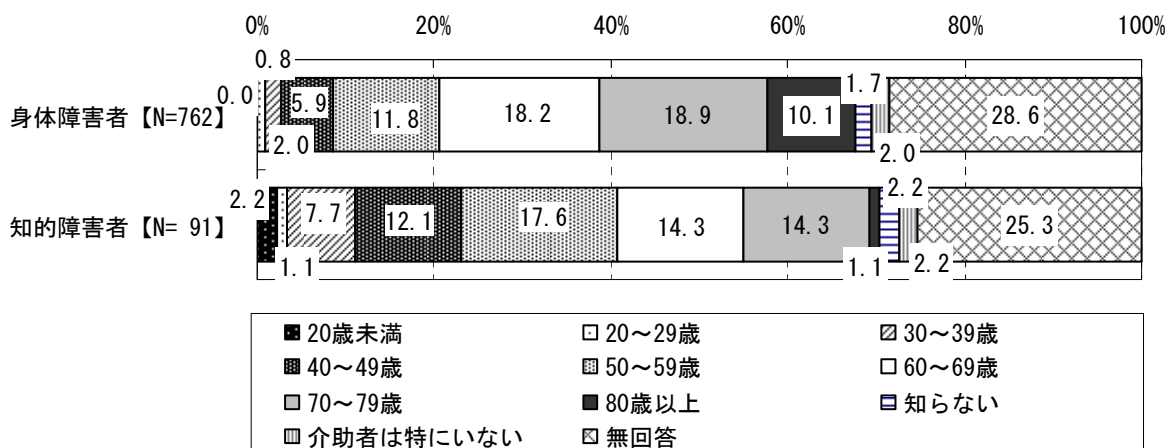
②性別

- ・身体障害者では男性18.1%、女性47.9%となっている。
- ・知的障害者では男性13.2%、女性59.3%となっている。



③年齢

- ・身体障害者では「70～79歳」が18.9%、「60～69歳」が18.2%となっている。
- ・知的障害者では「50～59歳」が17.6%、「60～69歳」と「70～79歳」が同率14.3%となっている。



13 教育・就労の状況

(1) 教育の状況

①通園・通学状況

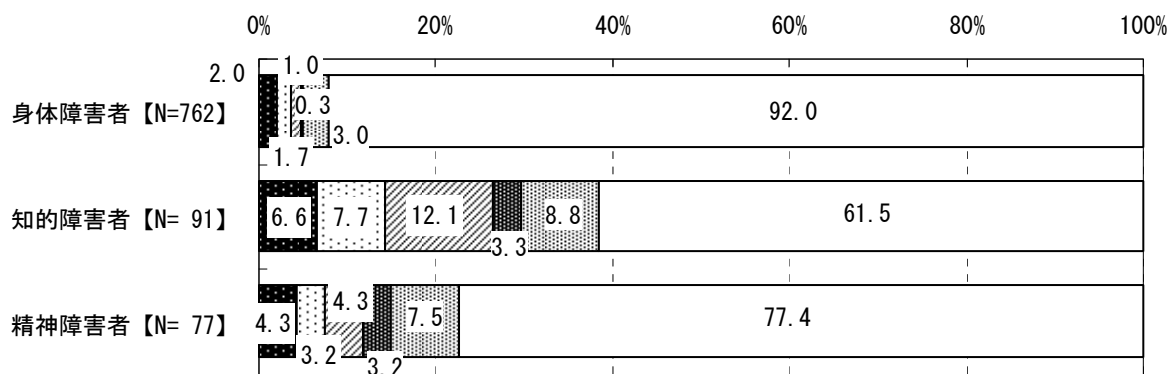
・身体障害者、知的障害者、精神障害者の通園・通学状況は下記の表のとおりとなっている。

単位：人
%

区分	保育園・幼稚園	小・中学校、 高等学校（普通学級）	小・中学校 （特別支援学級）	特別支援学校 （小・中・高等部）	大学・専門学校	その他
身体障害者【N=21】	-	8	2	3	-	8
	-	38.1	9.5	14.3	-	38.1
知的障害者【N=17】	2	-	6	6	-	3
	11.8	-	35.3	35.3	-	17.6
精神障害者【N= 7】	1	1	1	-	-	4
	14.3	14.3	14.3	-	-	57.1

②障がいのある児童・生徒に望ましい就学環境

- ・身体障害者では「普通学校において、できるだけ他の児童・生徒と同程度の教育やサポートを受けられる環境」が比較的多い。
- ・知的障害者では「特別支援学校において、できるだけ専門的な教育やサポートを受けられる環境」が比較的多い。
- ・精神障害者では「分からない」を除くと、「普通学校において、できるだけ他の児童・生徒と同程度の教育やサポートを受けられる環境」と「特別支援学校において、できるだけ専門的な教育やサポートを受けられる環境」が同率で最も高い。

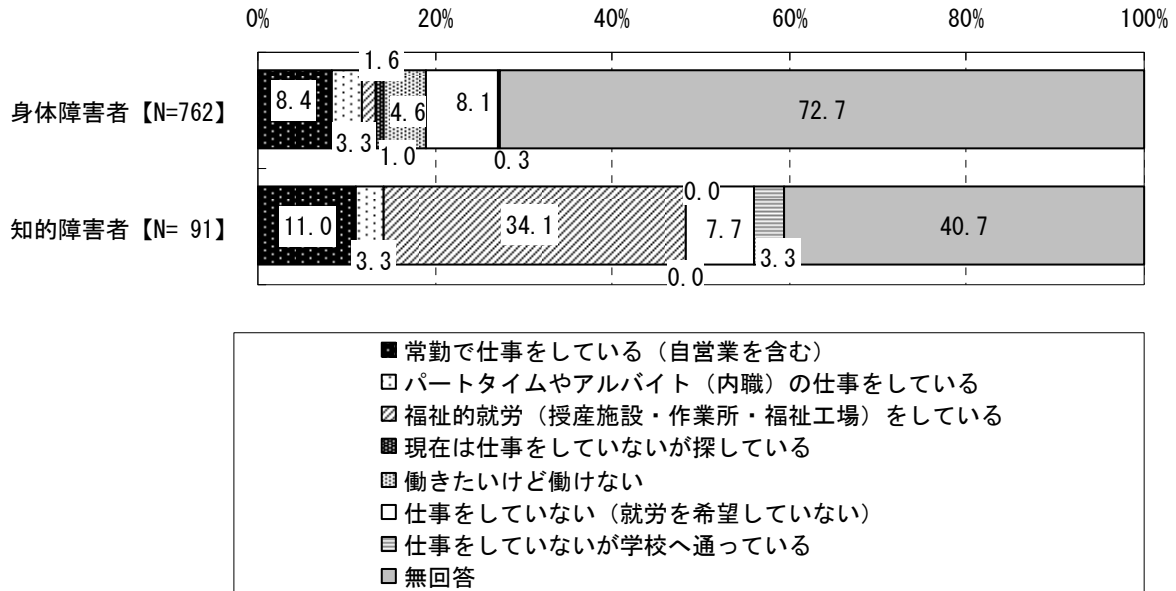


■	普通学校において、できるだけ他の児童・生徒と同程度の教育やサポートを受けられる環境
□	普通学校の特別支援学級において、できるだけ専門的な教育やサポートを受けられる環境
▨	特別支援学校において、専門的な教育やサポートを受けられる環境
●	その他
■	分からない
□	無回答

(2) 現在の就労の状況

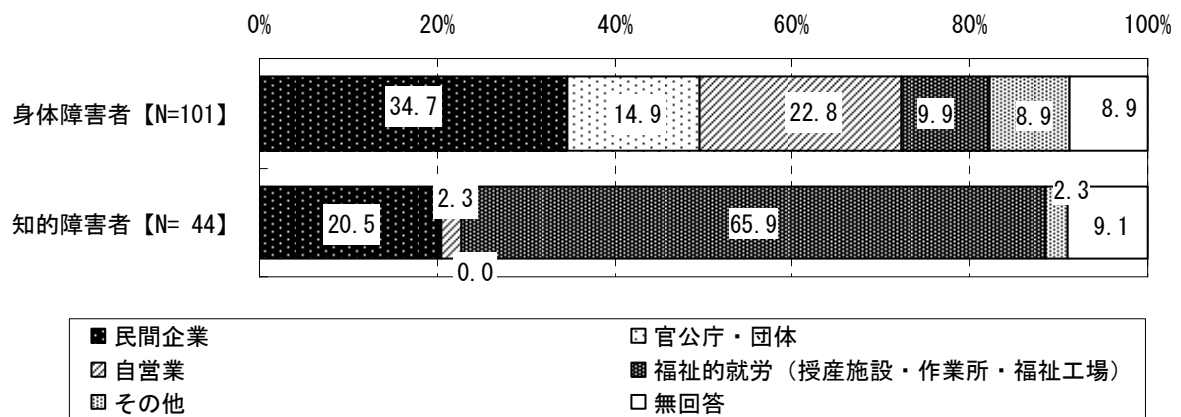
①身体障害者・知的障害者の就労状況や形態

- ・身体障害者では「常勤で仕事をしている」の比率が8.4%と比較的高い。
- ・知的障害者では「福祉的就労（授産施設・作業所・福祉工場）をしている」の比率が34.1%と最も高い。

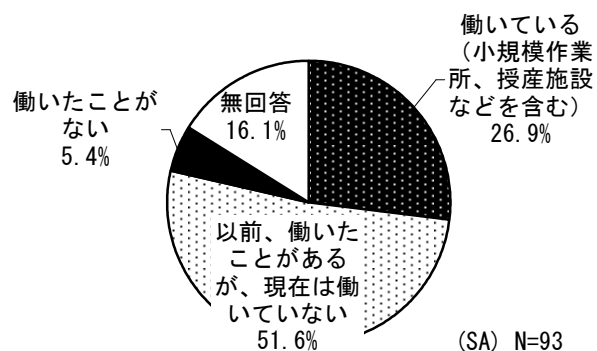


②身体障害者・知的障害者の就労先

- ・身体障害者では「民間企業」が34.7%、次いで「自営業」22.8%の順に高くなっている。
- ・知的障害者では「福祉的就労（授産施設・作業所・福祉工場）」が65.9%と最も高い割合を占めており、次いで「民間企業」が20.5%となっている。



③精神障害者の就労の有無



- ・「以前、働いたことがあるが、現在は働いていない」が過半数となっている。
- ・「働いている (小規模作業所、授産施設などを含む)」が 26.9%となっている。

④就労している精神障害者の雇用形態

- ・下記のとおり「小規模作業所、授産施設などの利用」が最も多くなっている。

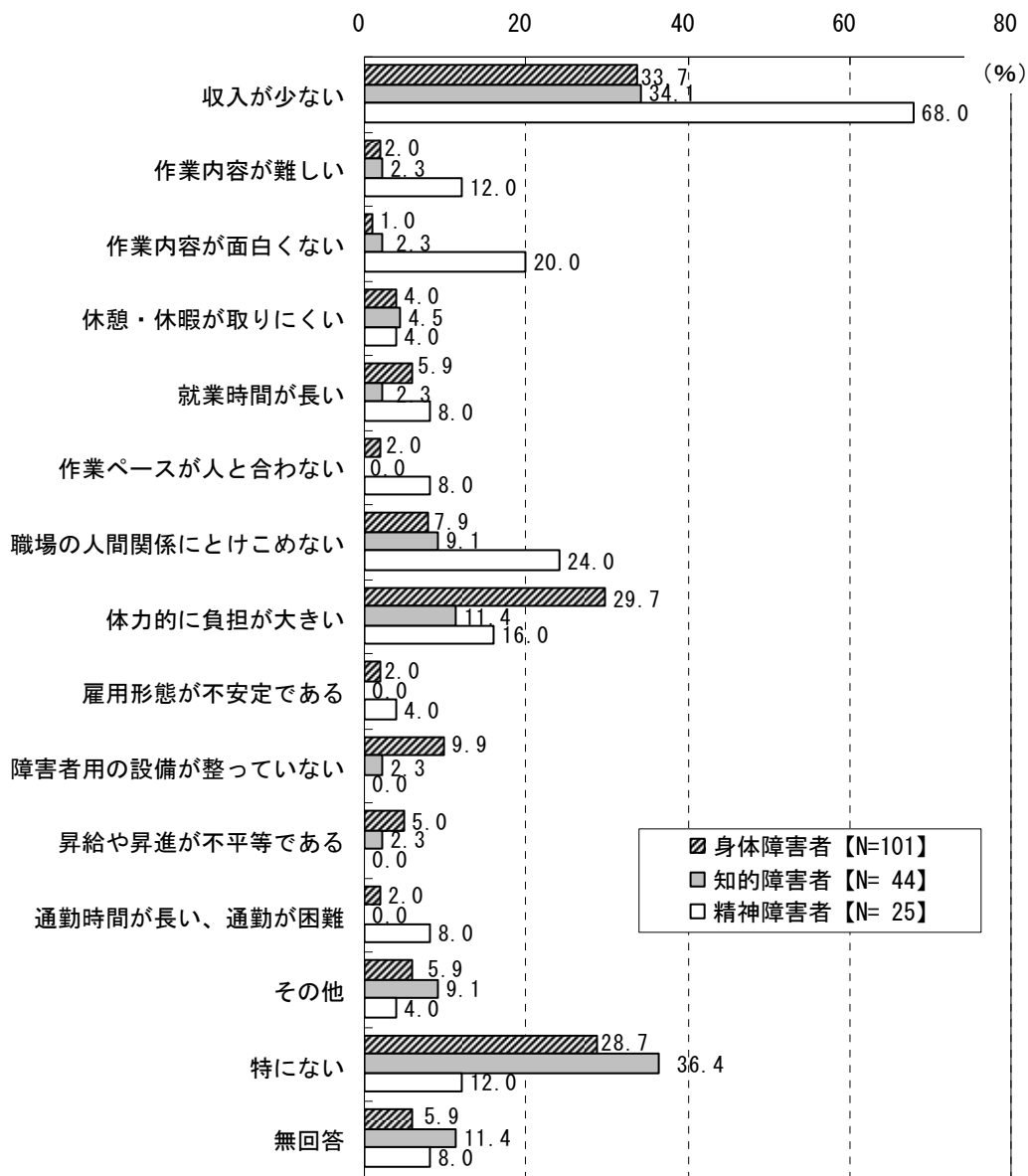
単位：人
%

全体	会社員 (正社員などの常用勤労者)	臨時、日雇い、パート、嘱託	自営業	家業の手伝い	小規模作業所、授産施設などの利用	内職	その他
25	2	5	3	-	13	1	1
100.0	8.0	20.0	12.0	-	52.0	4.0	4.0

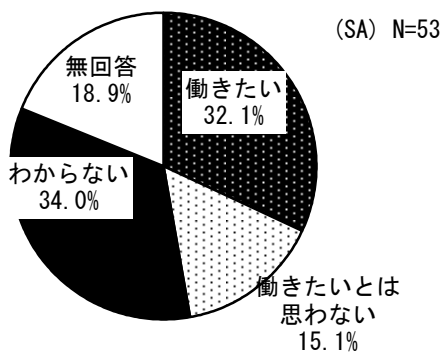
⑤現在の仕事の就労年数

⑥仕事上の不安や不満

・「特にない」を除くと、身体障害者、知的障害者、精神障害者すべてで「収入が少ない」が最も高い比率となっており、とくに「精神障害者」で68.0%となっている。



(3) 今後の就労意向 (精神障害者)

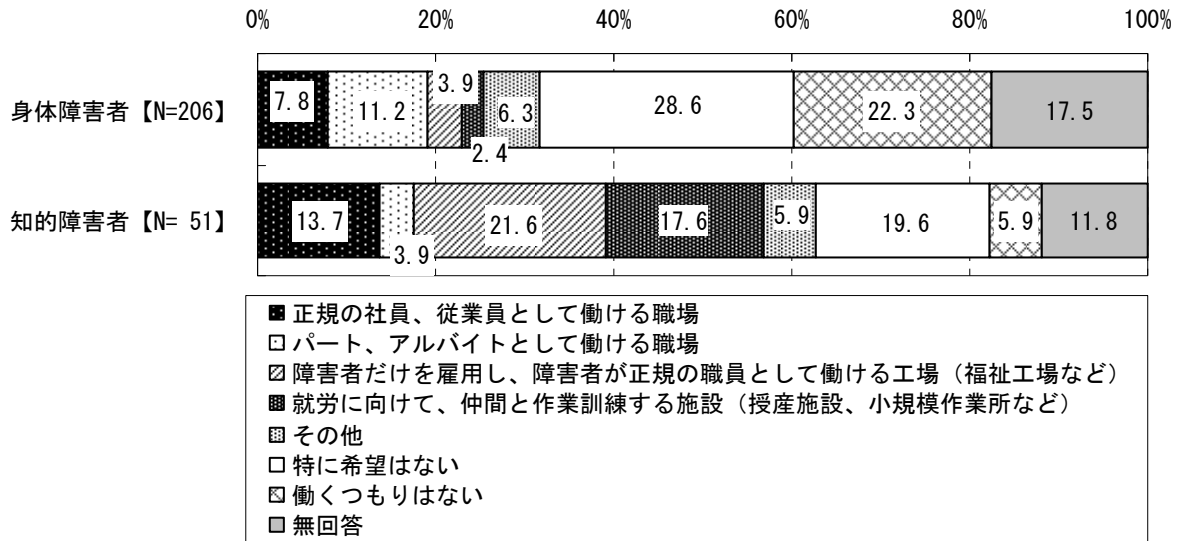


・「現在働いていない」または「働いたことがない」人に今後の就労意向をたずねたところ、「働きたい」は32.1%、「働きたいとは思わない」が15.1%、「わからない」が34.0%となっている。

(4) 今後「働く場」への希望

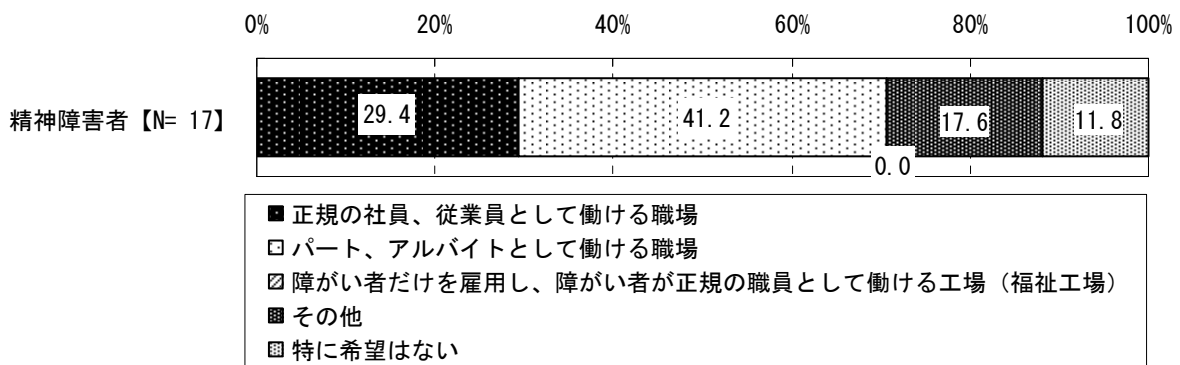
①身体障害者・知的障害者

- ・身体障害者では「特に希望はない」、「働くつもりはない」に続き、「パート、アルバイトとして働ける職場」が 11.2%となっている。
- ・知的障害者では「特に希望はない」を除くと、「障害者だけを雇用し、障害者が正規の職員として働ける工場（福祉工場など）」が 21.6%、「就労に向けて、仲間と作業訓練する施設（授産施設、小規模作業所など）」が 17.6%などとなっている。



②精神障害者

- ・現在働いていない又は、働いたことがない人の今後の就労意向をみると、「パート、アルバイトとして働ける職場」が最も多くなっている。

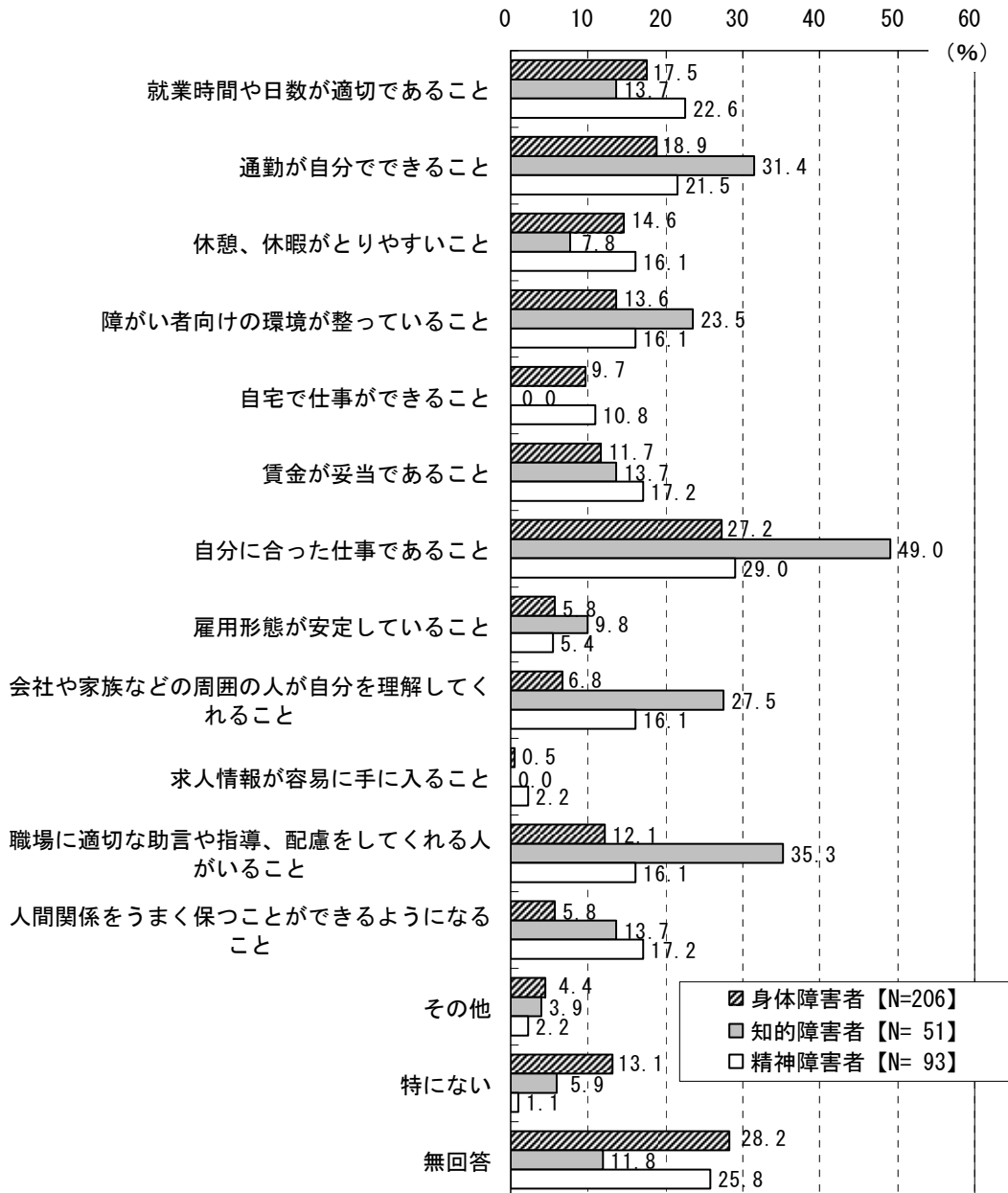


単位：人
%

全体	正規の社員、従業員として働ける職場	パート、アルバイトとして働ける職場	障がい者だけを雇用し、障がい者が正規の職員として働ける工場（福祉工場）	その他	特に希望はない
17	5	7	-	3	2
100.0	29.4	41.2	-	17.6	11.8

(5) 働く上で必要なこと

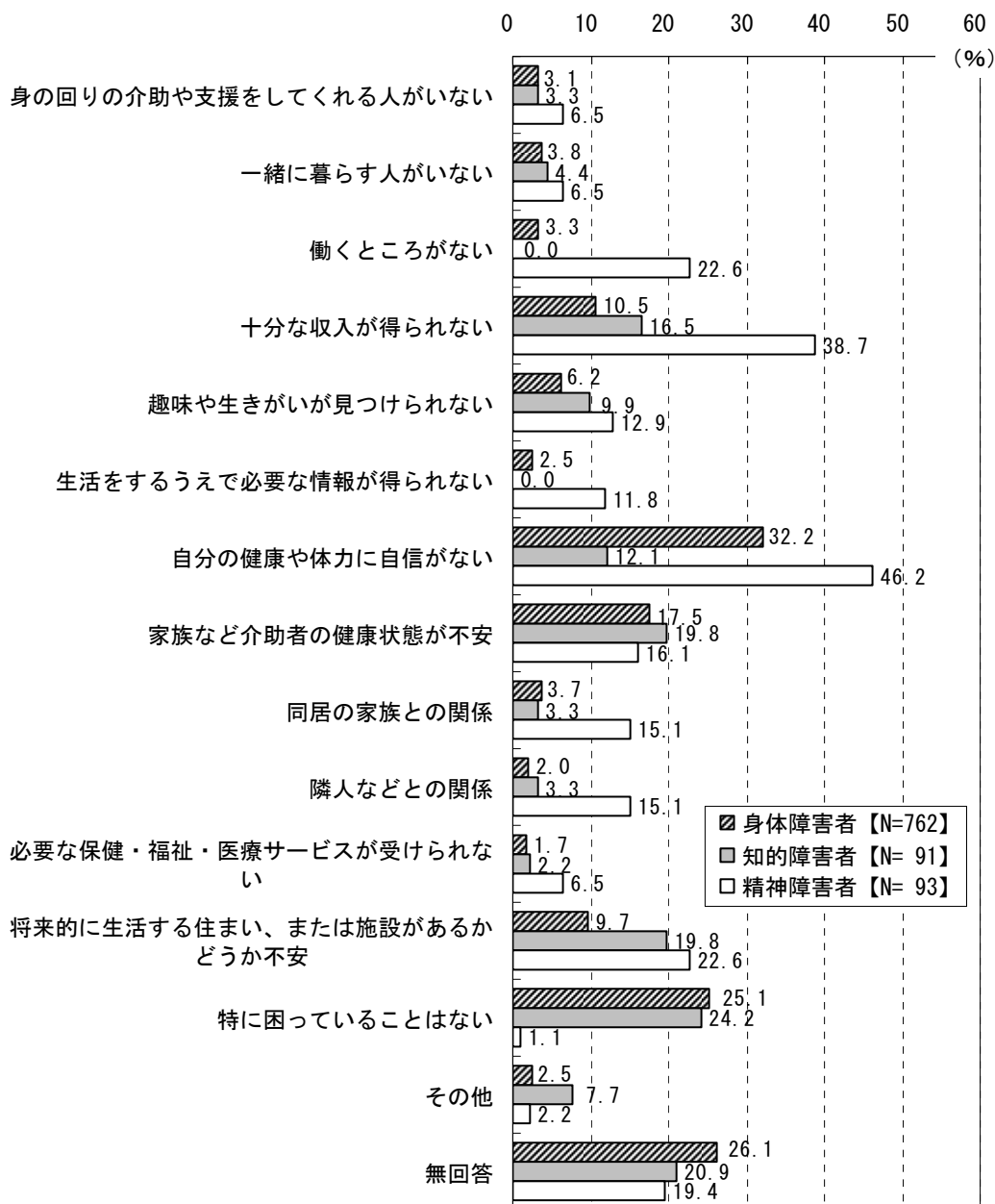
- ・身体障害者では「自分に合った仕事であること」が 27.2%と最も高い。
- ・知的障害者では「自分に合った仕事であること」が 49.0%と最も高く、次いで「職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること」が 35.3%、「通勤が自分でできること」が 31.4%となっている。
- ・精神障害者では「自分に合った仕事であること」が 29.0%と最も高く、「就業時間や日数が適切であること」22.6%などが続く。



14 日中活動等の状況

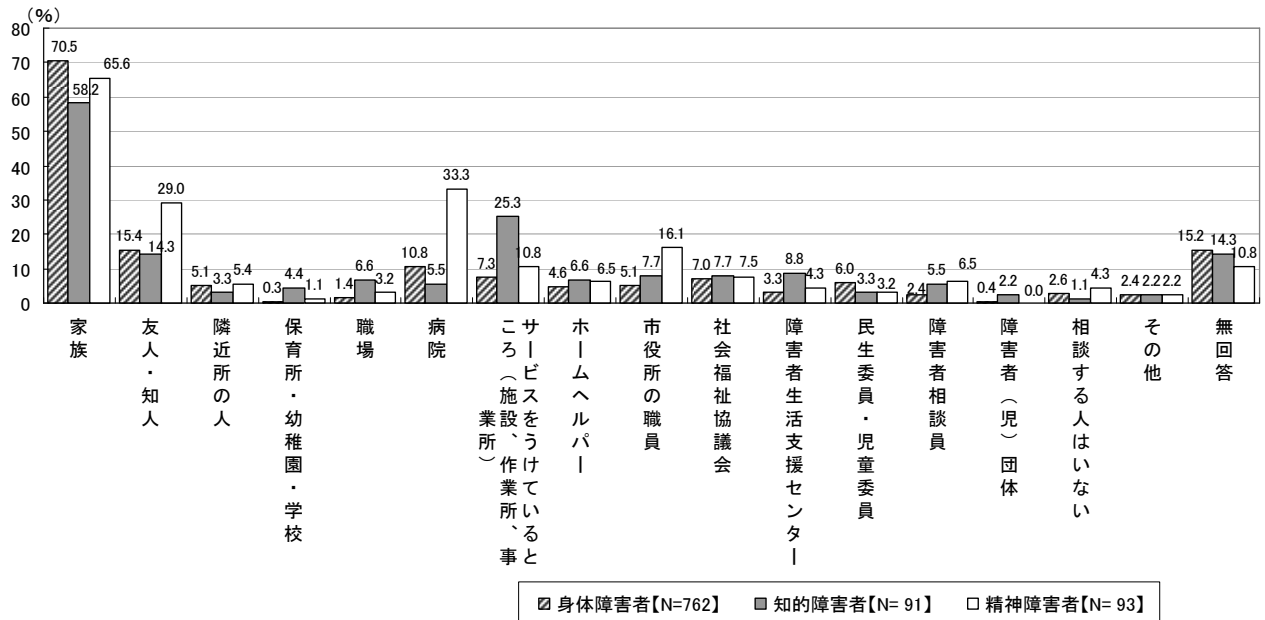
(1) 現在の生活での困りごとや不安

- ・身体障害者では「自分の健康や体力に自信がない」が最も高く 32.2%となっている。
- ・知的障害者では「特に困っていることはない」24.2%に次いで、「家族など介助者の健康状態が不安」と「将来的に生活する住まい、または施設があるかどうか、不安」が同率 19.8%となっている。
- ・精神障害者では「自分の健康や体力に自信がない」が最も高く 46.2%、「十分な収入が得られない」38.7%、「働くところがない」22.6%などが続く。



(2) 悩みや困りごとの相談相手

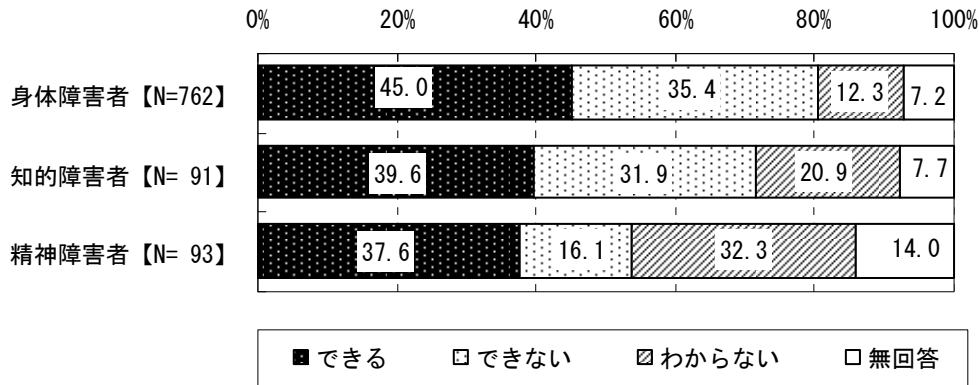
- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者すべてで「家族」が最も高い比率を示している。
- ・次いで高い回答となっているのは、身体障害者で「友人・知人」、知的障害者で「サービスを受けているところ（施設、作業所、事業所）」、精神障害者で「病院」となっている。



(3) 災害発生時の避難

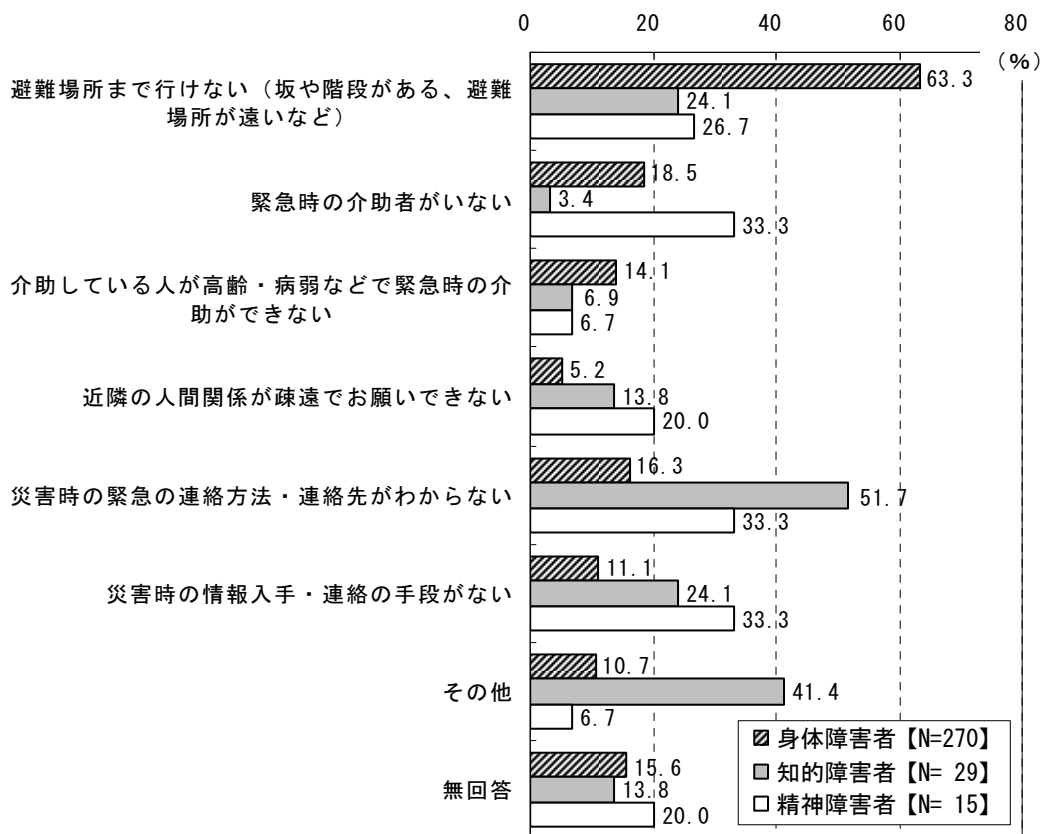
①一人での避難の可否

・一人で避難「できる」比率は身体障害者で 45.0%、知的障害者で 39.6%、精神障害者で 37.6%となっている。



②避難時の困りごと（一人で避難できない人に）

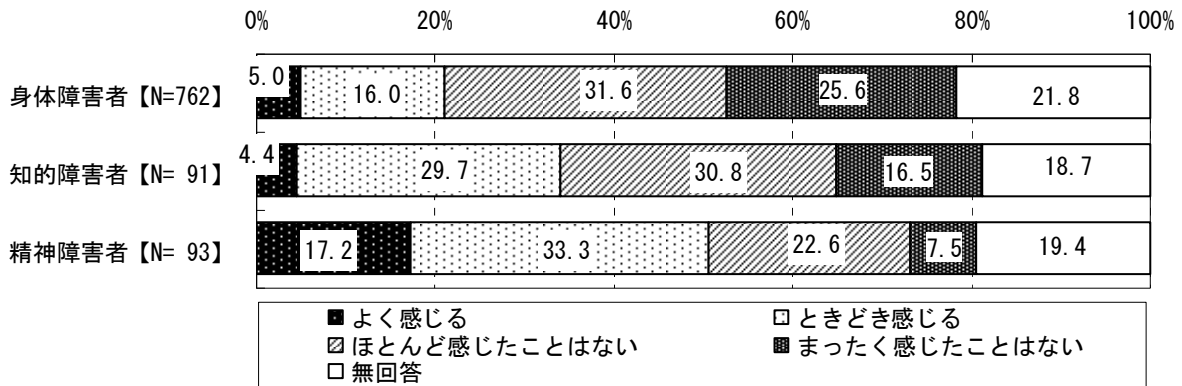
- ・身体障害者では「避難場所まで行けない（坂や階段がある、避難場所が遠いなど）」が6割強となっている。
- ・知的障害者では「災害時の緊急の連絡方法・連絡先がわからない」が5割強となっている。
- ・精神障害者では「緊急時の介助者がいない」、「災害時の緊急の連絡方法・連絡先がわからない」、「災害時の情報入手・連絡の手段がない」が同率 33.3%となっている。



(4) 日常生活での差別・偏見、疎外感

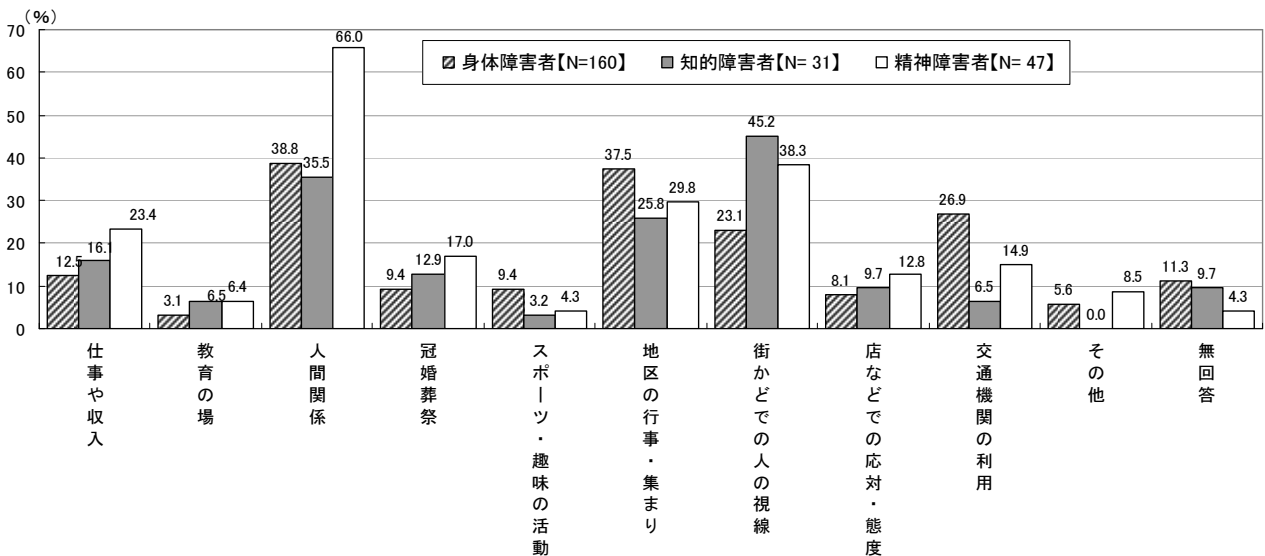
①「差別等を感じる」有無

- ・身体障害者では「ほとんど感じたことはない」が31.6%と最も高い。
- ・知的障害者では「ほとんど感じたことはない」が最も高く30.8%であるが、「ときどき感じる」が僅差で29.7%となっている。
- ・精神障害者では「ときどき感じる」が33.3%と最も多く、「よく感じる」17.2%と合計すると『感じる』ポイントは過半数となる。



②「差別等を感じる」とき

- ・身体障害者では「人間関係」が38.8%、「地区の行事・集まり」が37.5%などとなっている。
- ・知的障害者では「街かどでの人の視線」が45.2%、「人間関係」が35.5%などとなっている。
- ・精神障害者では「人間関係」が66.0%、「街かどでの人の視線」が38.3%などとなっている。

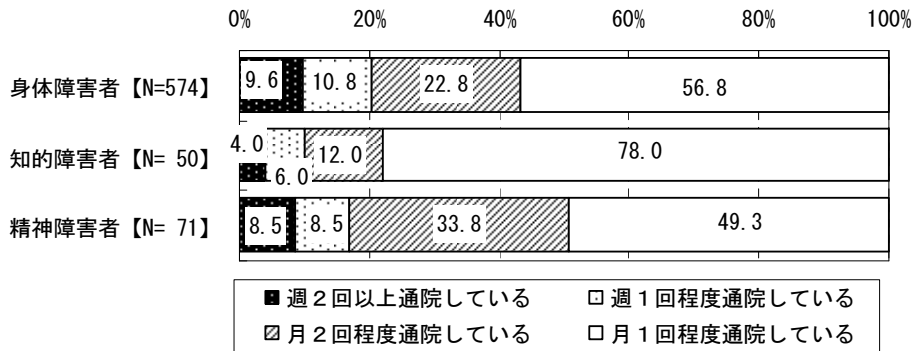


15 通院・入院の状況

(1) 通院の状況

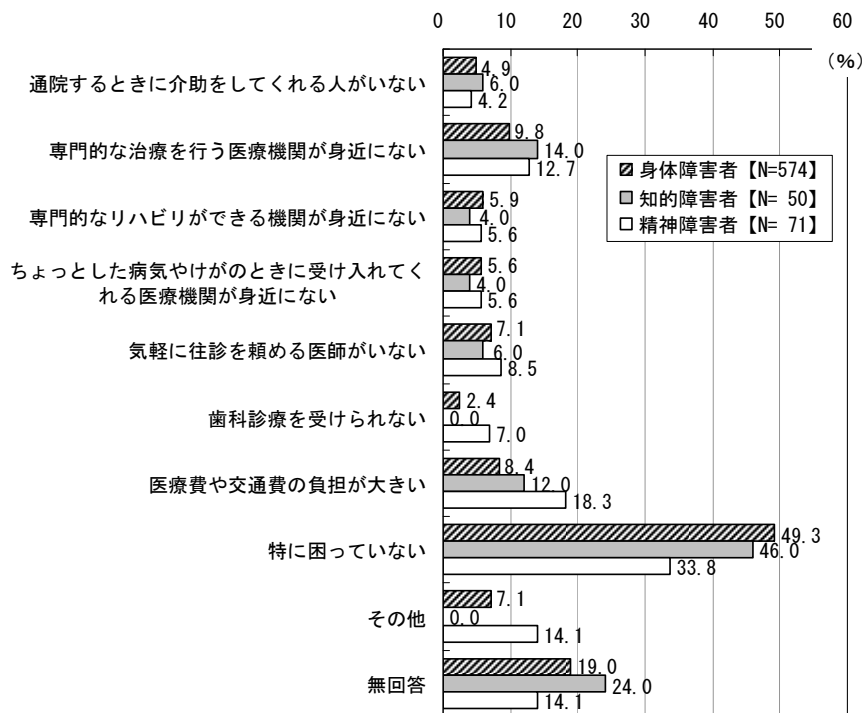
①通院の頻度

・身体障害者、知的障害者、精神障害者いずれも「月1回以上通院している」とうかがえる。

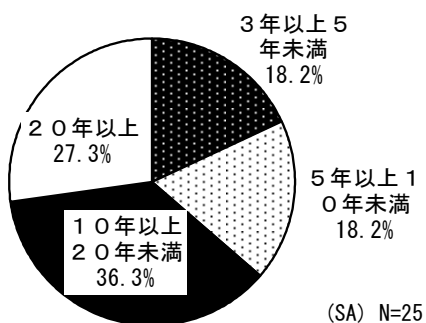


②通院での困りごと

・身体障害者、知的障害者、精神障害者いずれも「特に困っていない」の比率が最も高くなっている。
 ・知的障害者、精神障害者では「専門的な治療を行う医療機関が身近にない」と「医療費や交通費の負担が大きい」については1割以上の回答を得ている。



(2) 入院の状況 (精神障害者)

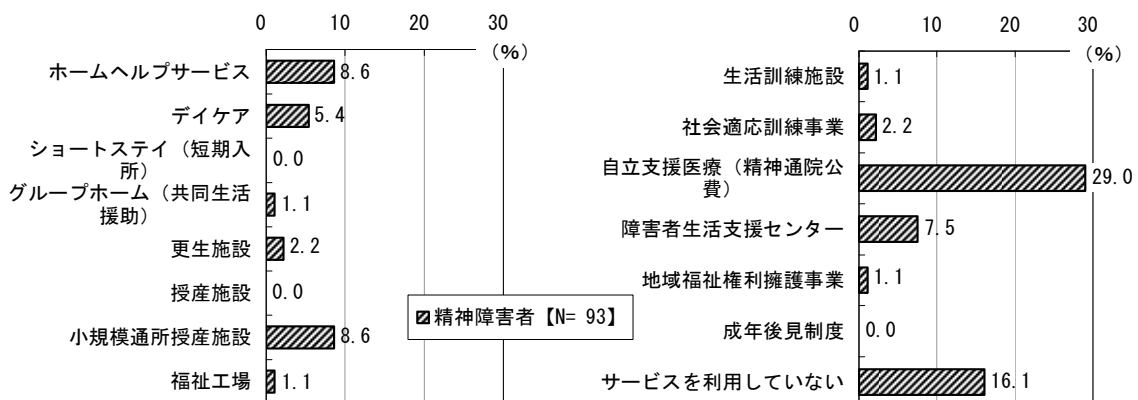
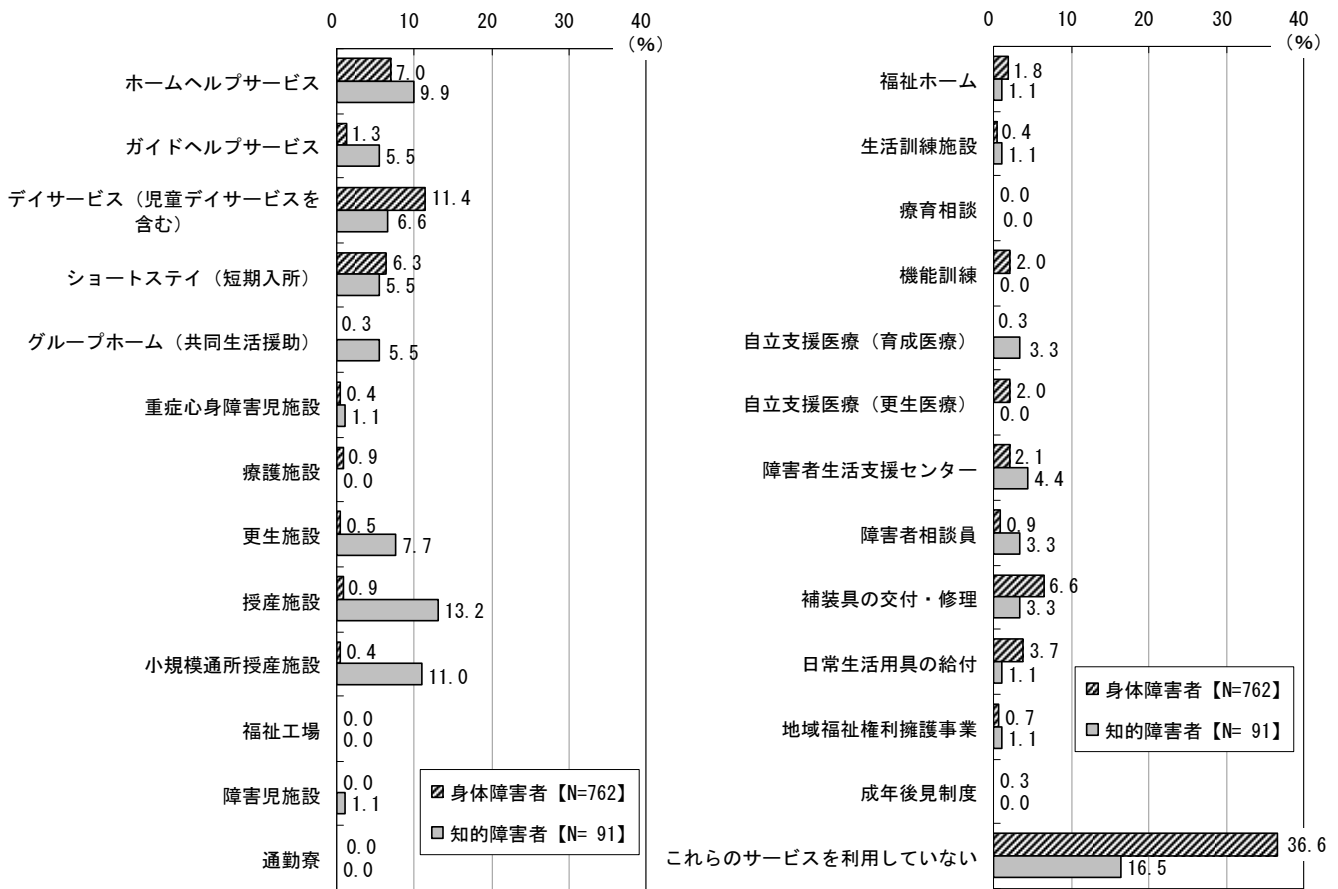


・「10年以上 20年未満」が36.3%と最も高い割合であり、次いで「20年以上」が27.3%となっている。

16 福祉サービスの利用状況・利用意向

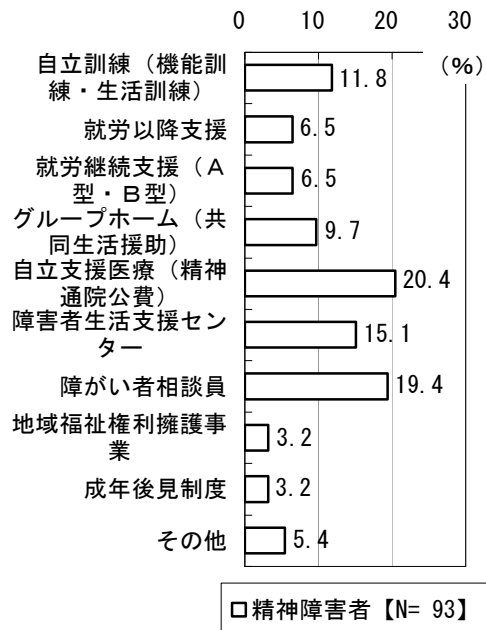
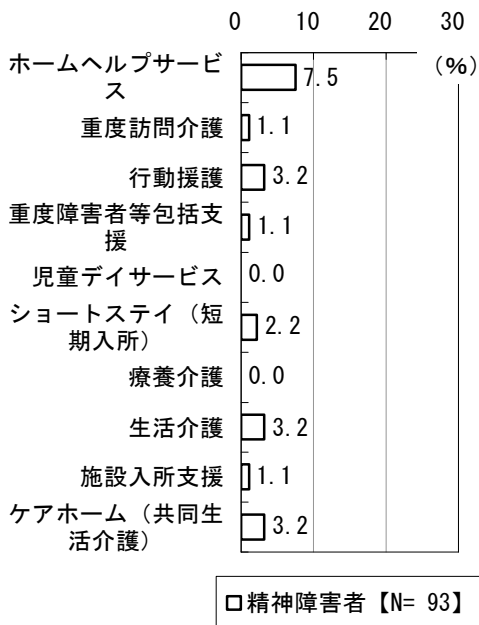
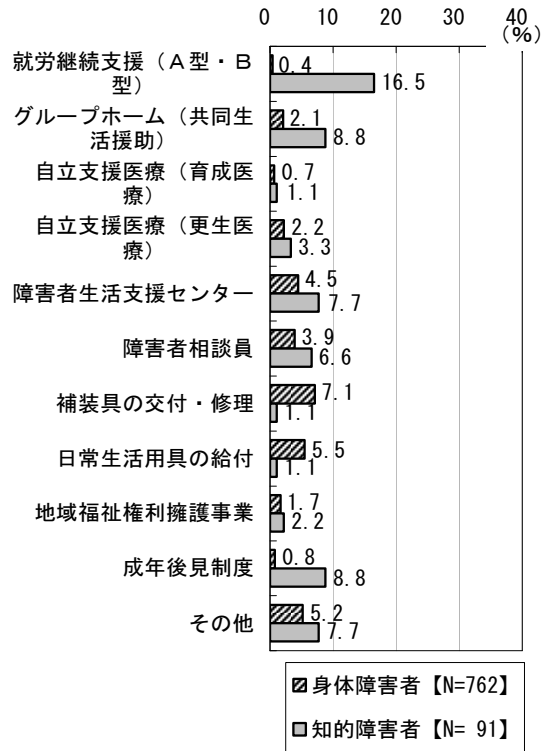
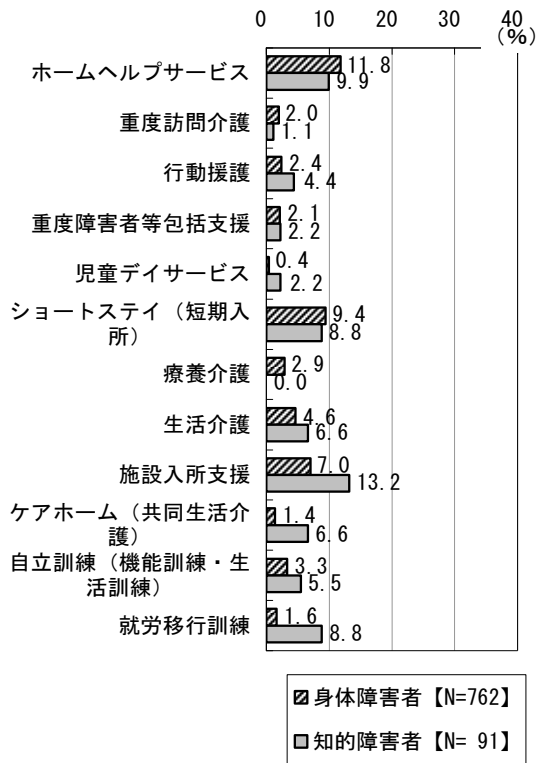
(1) 現在利用しているサービス

- ・身体障害者、知的障害者ともに「これらのサービスを利用していない」の比率が最も高い。
- ・利用しているサービスのうち、身体障害者では「デイサービス（児童デイサービスを含む）」が最も高く 11.4%、知的障害者では「授産施設」13.2%に続き「小規模通所授産施設」が 11.0%となっている。
- ・精神障害者では「自立支援医療（精神通院公費）」が最も高く 29.0%であり、「サービスを利用していない」が 16.1%となっている。



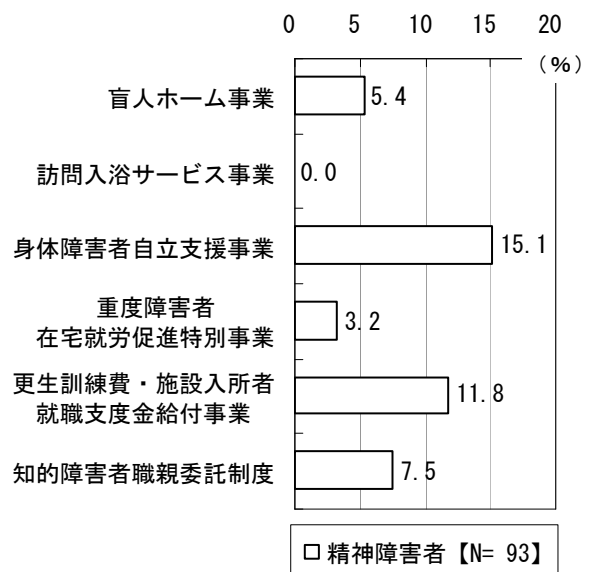
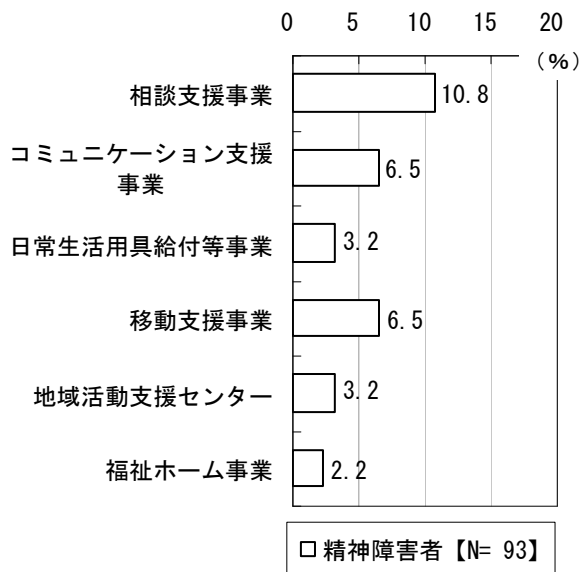
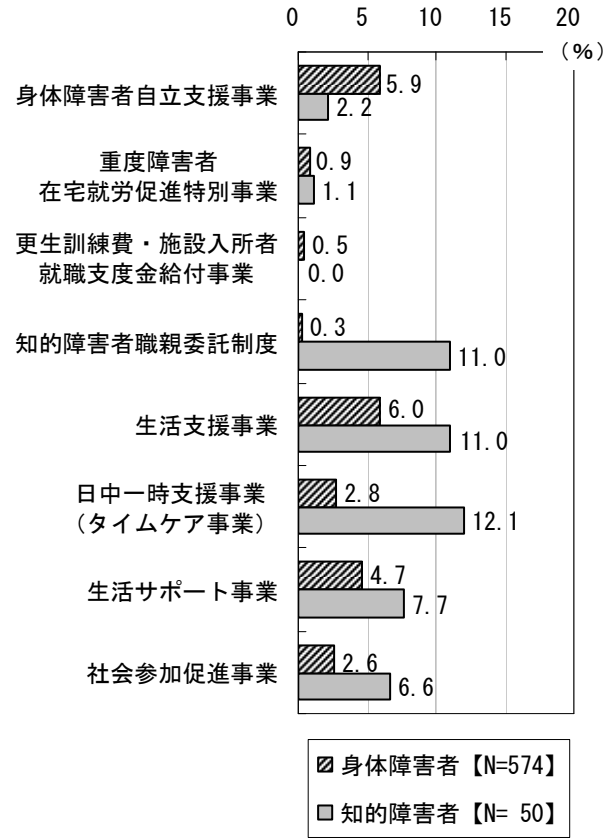
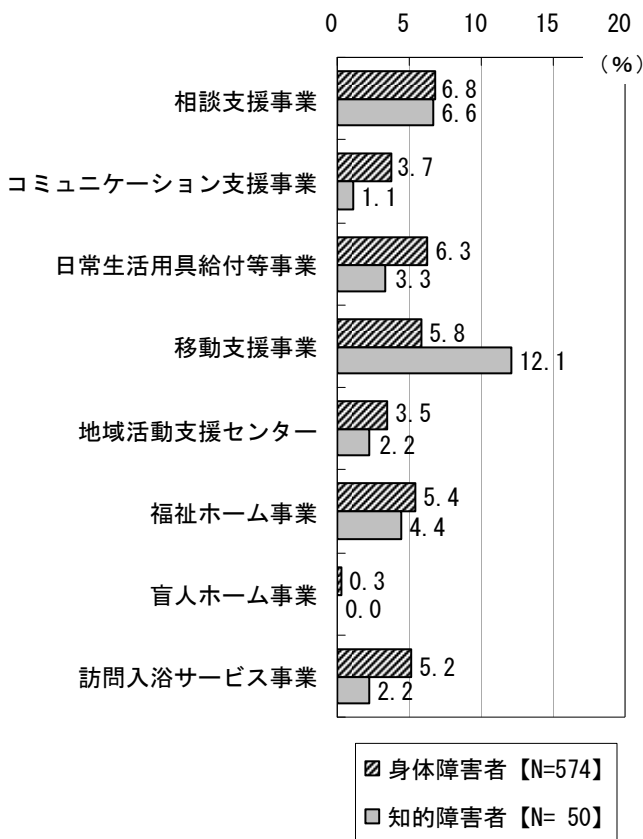
(2) 今後利用したいサービス

- ・身体障害者では「ホームヘルプサービス」が最も高く 11.8%となっている。
- ・知的障害者では「就労継続支援（A型・B型）」が 16.5%、次いで「施設入所支援」が 13.2%となっている。
- ・精神障害者では「自立支援医療（精神通院公費）」が 20.4%、「障がい者相談員」が 19.4%となっている。



(3) 利用したい地域生活支援事業

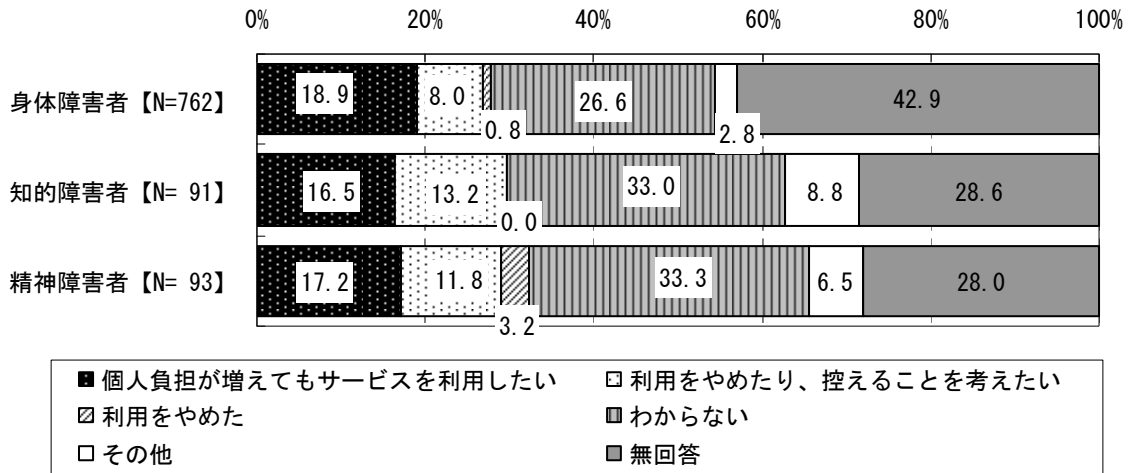
- ・身体障害者では「相談支援事業」6.8%、「日常生活用具給付等事業」6.3%などとなっている。
- ・知的障害者では「移動支援事業」、「日中一時支援事業（タイムケア事業）」が同率 12.1%などとなっている。
- ・精神障害者では「身体障害者自立支援事業」が 15.1%、「更生訓練費・施設入所者就職支度金給付事業」が 11.8%などとなっている。



(4) 障害福祉サービス利用料

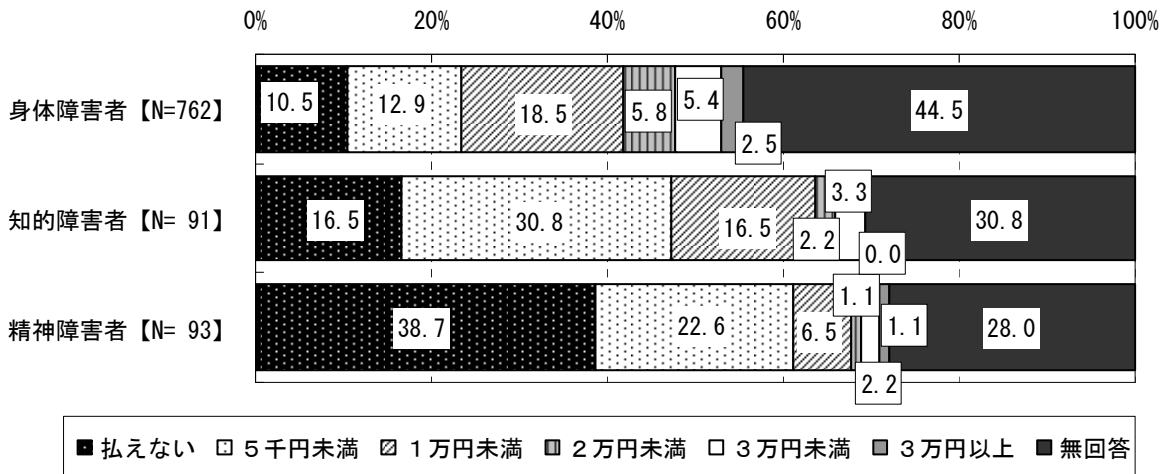
①利用料に応じた個人負担について

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者のいずれも「わからない」の比率が最も高くなっている。
- ・「個人負担が増えてもサービスを利用したい」との回答比率は、身体障害者で 18.9%、知的障害者で 16.5%、精神障害者で 17.2%となっている。



②支払ってもよいサービス月額利用料

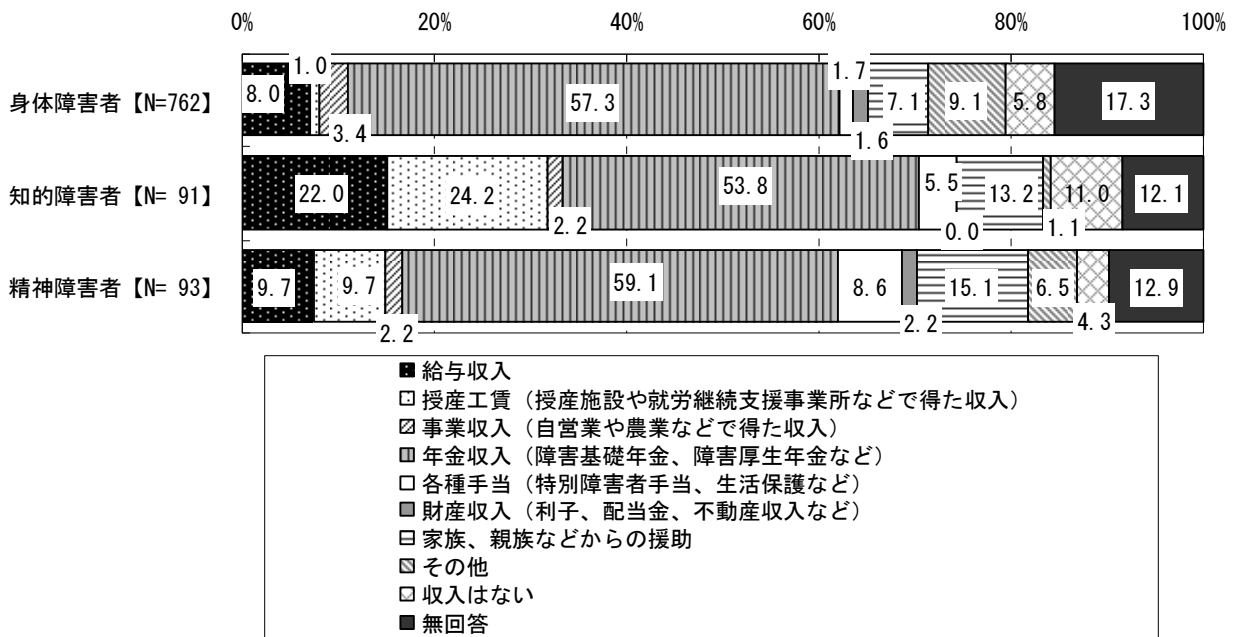
- ・身体障害者では「1万円未満」が 18.5%となっている。
- ・知的障害者では「5千円未満」が 30.8%となっている。
- ・精神障害者では「払えない」が 38.7%、次いで「5千円未満」が 22.6%となっている。



(5) 収入

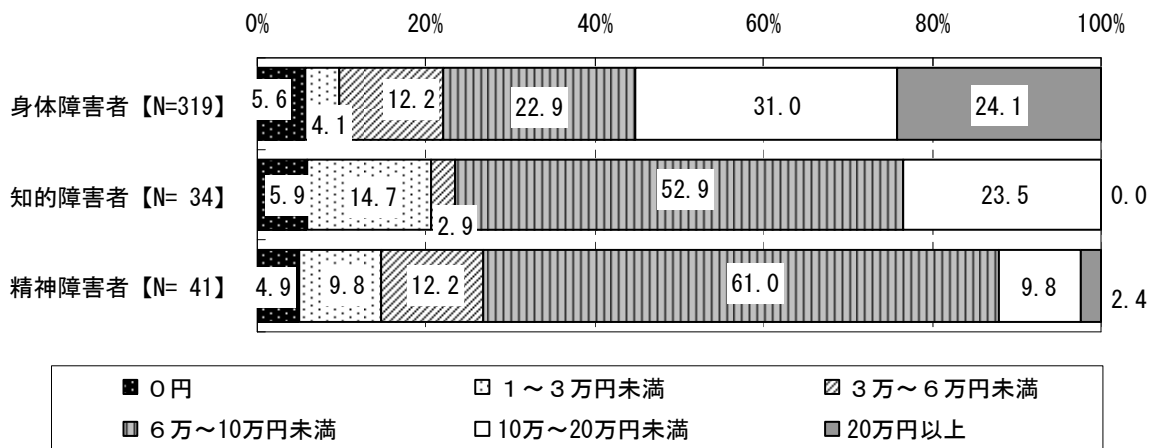
①現在の収入源

・身体障害者、知的障害者、精神障害者いずれにおいても、「年金収入」が最も高い割合を占め5割台となっている。



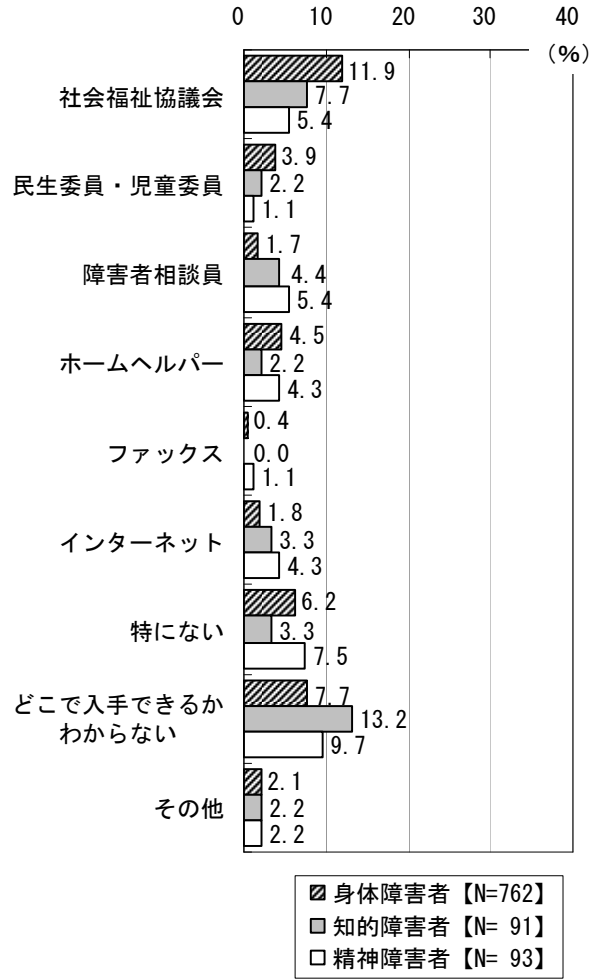
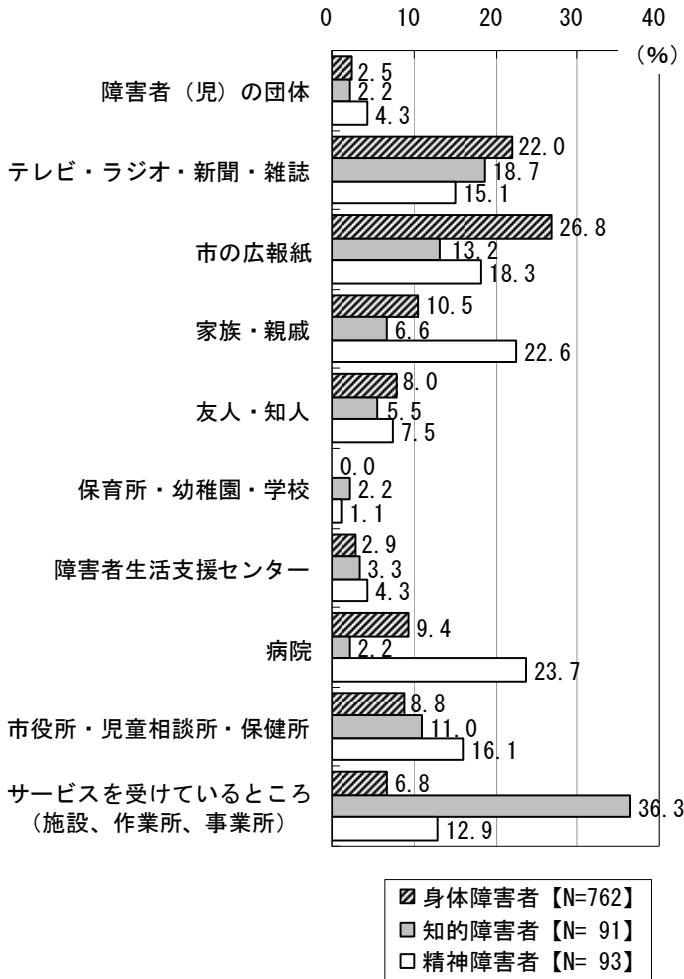
②1か月の収入

・身体障害者では「10万～20万円未満」が31.0%と最も高くなっている。
 ・知的障害者、精神障害者では「6万～10万円未満」が最も高い回答比率で過半数となっている。



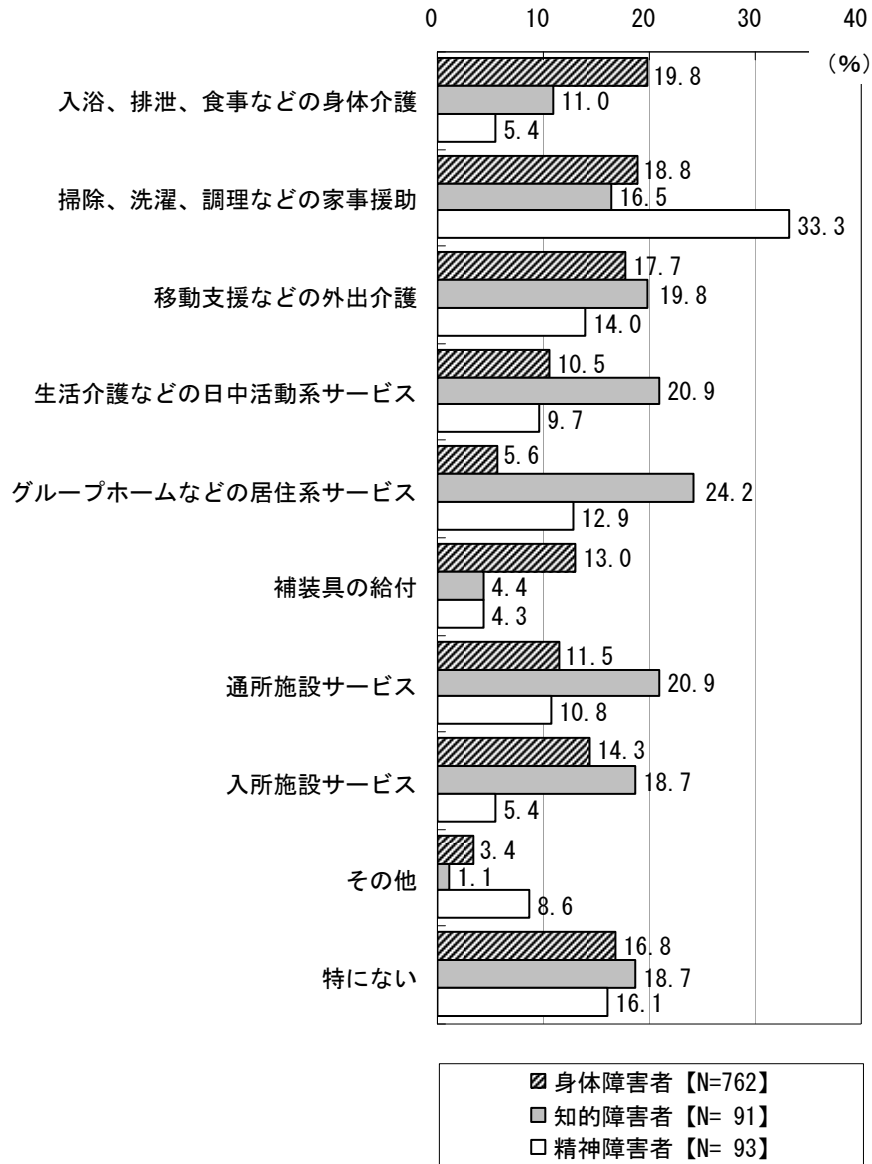
(6) サービスに関する情報入手先

- ・身体障害者では「市の広報紙」が 26.8%となっている。
- ・知的障害者では「サービスを受けているところ（施設、作業所、事業所）」が 36.3%となっている。
- ・精神障害者では「病院」が 23.7%となっている。



(7) 「障害者総合福祉制度」のサービスの充実に望むこと

- ・身体障害者では「入浴、排泄、食事などの身体介護」が 19.8%などとなっている。
- ・知的障害者では「グループホームなどの居住系サービス」が 24.2%などとなっている。
- ・精神障害者では「掃除、洗濯、調理などの家事援助」が 33.3%などとなっている。



(8) 生活シーンでの希望度・実現度

①希望度と実現度

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者いずれも「⑭信頼できる『かかりつけ医』がいるとよい」の希望度と実現度が最も高くなっている。

区分	身体障害者		知的障害者		精神障害者	
	希望度	実現度	希望度	実現度	希望度	実現度
①障害や障害のある人について周りの人が理解してほしい	1.26	0.03	1.58	-0.03	1.53	-0.21
②地域のボランティアと知り合いになりたい	0.07	-0.60	0.76	-0.69	0.24	-0.93
③生活上の困りごとを相談できる人がいるとよい	0.95	-0.16	1.48	0.41	1.29	-0.13
④今の住まいをもっと住みやすく、また介助がしやすいように改修したい	0.16	-0.27	0.05	-0.04	0.24	-0.72
⑤地震等の災害の時、安否を確認してほしい	1.22	-0.25	1.52	-0.07	1.17	-0.42
⑥仲間同士で集まったり、ひとりでも参加できる場所がほしい	0.31	-0.33	1.11	-0.36	0.32	-0.58
⑦買い物や旅行など余暇を充実させたい	0.55	-0.28	1.38	0.19	1.03	-0.36
⑧スポーツや運動をしたい	-0.26	-0.70	0.52	-0.33	0.26	-0.86
⑨バリアフリーな場所がもっと増えるとよい	0.92	-0.39	0.97	-0.18	0.83	-0.35
⑩公共交通機関（バス・鉄道）などが利用しやすくなるとよい	1.26	-0.62	1.58	-0.45	1.46	-0.58
⑪自分にあつた仕事や作業をしたい	0.16	-0.45	1.18	0.09	1.20	-0.98
⑫家族や支援者の支援を受けながらも、できるだけ自立した生活をしたい	1.08	0.22	1.22	-0.02	1.28	-0.55
⑬介助する家族等の健康管理にも気を配りたい	1.46	0.19	1.60	0.14	1.14	-0.43
⑭信頼できる「かかりつけ医」がいるとよい	1.68	0.69	1.61	0.81	1.73	0.43
⑮現在利用できるサービスをもっと知りたい	0.81	-0.37	1.08	-0.16	1.38	-0.47
⑯自宅で必要な援助をしてもらいながら暮らしたい	0.91	0.03	0.83	-0.04	1.09	-0.44
⑰自分の将来の生活を支援するサービスや制度を知りたい	0.96	-0.51	1.29	-0.33	1.48	-0.78
⑱異性と交際したり結婚したり、自分の家庭を築いたりしたい	-0.97	-0.19	0.78	-0.82	0.56	-0.58

②希望度と実現度の乖離度

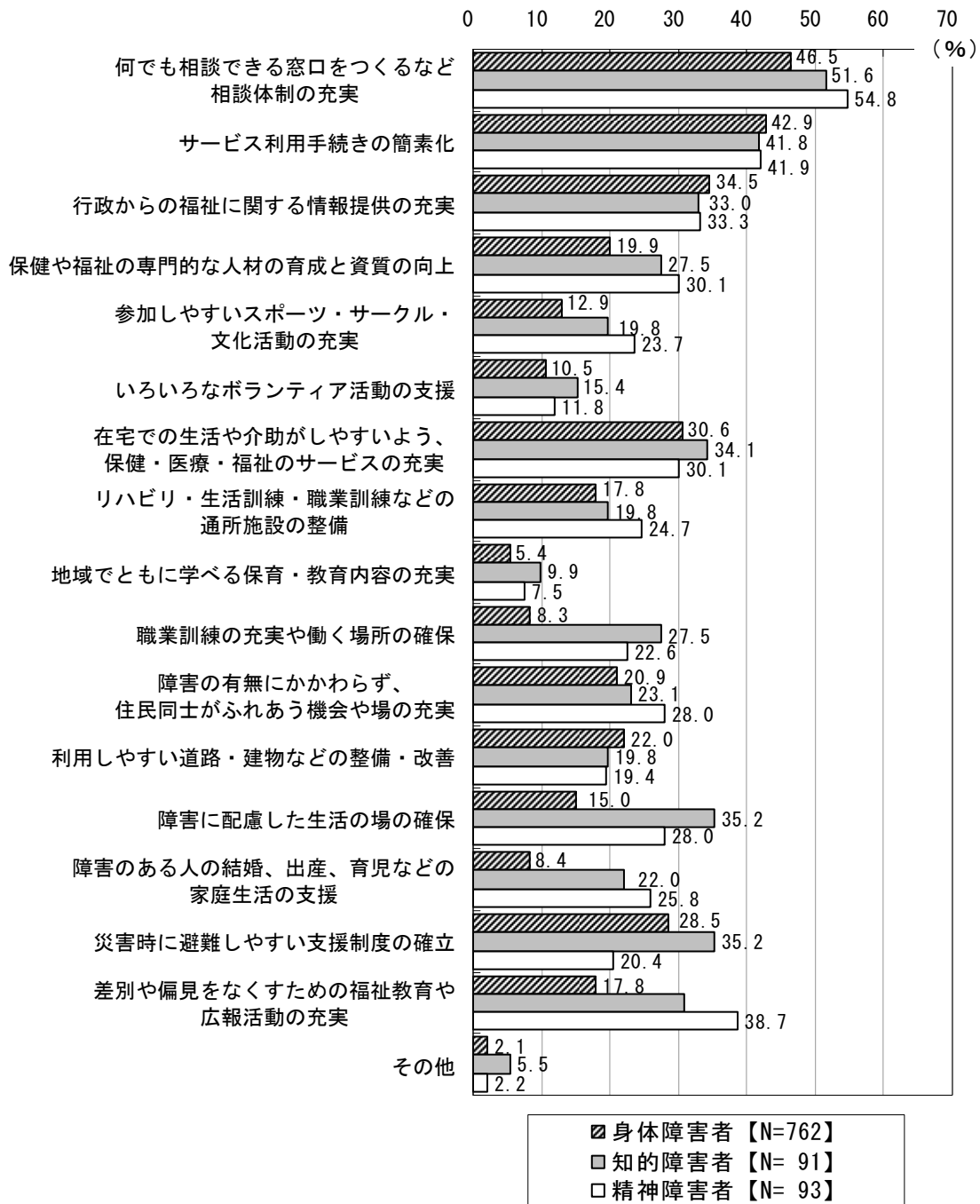
- ・希望度と実現度の幅である乖離度をみてる。
- ・身体障害者、知的障害者では「⑩公共交通機関（バス・鉄道）などが利用しやすくなるとよい」、精神障害者では「⑰自分の将来の生活を支援するサービスや制度を知りたい」について、最も乖離度が高くなっている。

区分	身体障害者		知的障害者		精神障害者	
	乖離度	順位	乖離度	順位	乖離度	順位
①障害や障害のある人について周りの人が理解してほしい	1.23		1.61	3	1.74	
②地域のボランティアと知り合いになりたい	0.66		1.45		1.17	
③生活上の困りごとを相談できる人がいるとよい	1.11		1.06		1.42	
④今の住まいをもっと住みやすく、また介助がしやすいように改修したい	0.43		0.08		0.96	
⑤地震等の災害の時、安否を確認してほしい	1.47	2	1.59		1.58	
⑥仲間同士で集まったり、ひとりでも参加できる場所がほしい	0.64		1.47		0.90	
⑦買い物や旅行など余暇を充実させたい	0.83		1.19		1.39	
⑧スポーツや運動をしたい	0.44		0.84		1.12	
⑨バリアフリーな場所がもっと増えるとよい	1.31		1.15		1.19	
⑩公共交通機関（バス・鉄道）などが利用しやすくなるとよい	1.88	1	2.02	1	2.03	3
⑪自分にあつた仕事や作業をしたい	0.61		1.10		2.18	2
⑫家族や支援者の支援を受けながらも、できるだけ自立した生活をしたい	0.86		1.23		1.83	
⑬介助する家族等の健康管理にも気を配りたい	1.27		1.47		1.57	
⑭信頼できる「かかりつけ医」がいるとよい	0.99		0.80		1.30	
⑮現在利用できるサービスをもっと知りたい	1.18		1.24		1.85	
⑯自宅で必要な援助をもらいながら暮らしたい	0.88		0.87		1.53	
⑰自分の将来の生活を支援するサービスや制度を知りたい	1.46	3	1.62	2	2.26	1
⑱異性と交際したり結婚したり、自分の家庭を築いたりしたい	0.79		1.60		1.14	

17 将来の暮らし

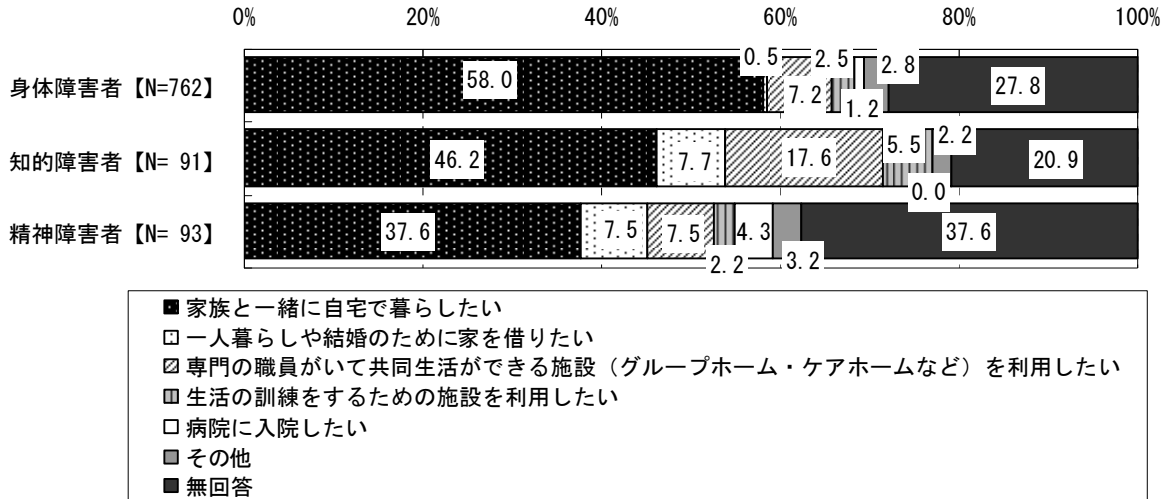
(1) 住みよいまちづくりに必要なこと

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者いずれも「何でも相談できる窓口をつくるなどの相談体制の充実」が最も高い回答比率となっており、「サービス利用手続きの簡素化」が次ぐ。
- ・続いて、身体障害者では「行政からの福祉に関する情報提供の充実」、「知的障害者」では同率で「障害に配慮した生活の場の確保」と「災害時に」避難しやすい支援制度の確立、「精神障害者」では「差別や偏見をなくすための福祉教育や広報活動の充実」、となっている。



(2) 今後または将来暮らしたい「生活の場」

- ・身体障害者、知的障害者、精神障害者いずれも「家族と一緒に自宅で暮らしたい」が最も高くなっている。
- ・次いで、身体障害者と知的障害者では「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホーム・ケアホームなど）を利用したい」、精神障害者では同率で「一人暮らしや結婚のために家を借りたい」と「専門の職員がいて共同生活ができる施設（グループホーム・ケアホームなど）を利用したい」が高い比率となっている。



(3) 今後、日々の暮らしでやっていきたいこと

- ・身体障害者では「家でゆっくりしたい」が 32.9%、知的障害者では「働きたい（働き続けたい）」が 39.6%、精神障害者では「家でゆっくりしたい」が 33.3%と、それぞれ最も高い回答となっている。

